

第 2 章

実践編

第2章では、平成23年度「中1ギャップ問題未然防止事業」に取り組んだ全道の6中学校区の中1ギャップ解消に向けた具体的な取組を掲載しました。

- 1 各指定中学校区における「中1ギャップ解消プラン」
- 2 中1ギャップを解消するポイントに基づく実践例
 - (1) 小・中学校の緊密な連携体制の整備
 - 推進体制の確立
 - 教員間の交流
 - 引継ぎの工夫
 - 出前授業の工夫
 - (2) 児童生徒の人間関係を築く力の育成
 - 人間関係を築く力を育成する教育活動の工夫
 - 児童生徒の交流活動の工夫
 - (3) 児童生徒の学校生活への適応状況のきめ細かな把握と適切な支援
 - 生活アンケートの活用

夕張市立夕張中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 夕張市立夕張中学校（生徒数 171名）
連携小学校名 夕張市立ゆうばり小学校（児童数 285名）

本プランの特徴

児童一人一人が抱えている中学校生活への不安をアンケートにより把握しています。

児童生徒の交流活動、合同学習、教職員の出前授業等を通して、人間関係づくりの能力(社会的スキル)を育成しています。

1 中学校区の特徴

夕張市は、かつては炭坑で栄えた都市であるが、炭坑の閉山により過疎化が進んでいる。特に、財政再建団体となった平成18年度以降、各地域における人口の減少に伴い、児童生徒数も減少が続いたことから、平成22年度、市内3中学校を1校に、平成23年度に市内6小学校を1校に再編した。学校再編後は、校区が広域になることから、全児童生徒の7割弱に当たる約300名が路線バス等で通学している。

2 中学校区の課題

本市の児童生徒の大半は、幼少期からの顔見知りであり、男女の仲も比較的よい一方で、友人関係が固定化しやすい傾向があり、次の3点が課題である。

- (1) 児童一人一人が抱えている中学校生活への不安
- (2) 他者とのかわり方が苦手であることなどのコミュニケーション能力の不足
- (3) 集団において人間関係をつくる能力の不足

また、平成23年度に市内6小学校を1校に再編したことから、中1ギャップの問題に加え、規模の異なる学校の統合による「学校再編ギャップ」が懸念された。

そのため、市内6小学校の第1学年から第5学年の児童による合同の体験学習や、小学校第6学年の児童による体験入学を実施するなどして、人間関係づくりの不安を解消するように努めてきた。

3 平成22年度までの小・中連携の状況

- ・市内の全ての小学校第6学年による合同の体験学習
- ・小学校第6学年を対象とした中学校教諭による出前授業
- ・小・中学校の綿密な引き継ぎ

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
ゆうばり小学校	校長	夕張中学校	教諭(1年担任2名)
ゆうばり小学校	教頭	夕張市教育委員会	教育長
ゆうばり小学校	教諭(生徒指導)	夕張市教育委員会	教育課長
ゆうばり小学校	教諭(6年担任2名)	夕張市教育委員会	主幹
夕張中学校	校長	夕張市教育委員会	教育アドバイザー
夕張中学校	教頭	北海道教育庁空知教育局	指導主事
夕張中学校	教諭(生徒指導)		

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	夕張中学校	ゆうばり小学校
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生ガイダンス（各学級・学年）の実施 ・新入生歓迎会の実施 ・全校集会（毎月実施） ・生活実態調査 ・学級集団づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動 ・縦割り班づくり ・1年生を迎える会の実施 ・全校朝会（毎月実施） ・補導連絡会（毎月実施）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会 ・学級経営交流会の実施 ・生徒指導交流会の実施 ・教育相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営交流会の実施
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の実施 ・スポーツ大会の開催 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin: 5px 0;"> 詳細 p32 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;"> 「中1ギャップ問題未然防止事業」第1回検討委員会 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・校内理論研修における構成的グループ・エンカウターの研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導交流会の実施 ・教育相談の実施
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導交流会の実施 ・各学級における構成的グループ・エンカウターの実施 ・歌声集会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動の開始 ・児童集会（かくれんぼ大会）の実施 ・中村真衣氏による講演会の開催
	アセスを活用したアンケート調査 の実施（小学校第5・6学年、中学校全学年）	
8月		<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動の実施 ・福島県児童生徒との交流会の開催 ・ワクワクプロジェクトの実施 ・幼稚園との交流会の開催 ・腹話術講演会の開催
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭・合唱交流会の開催 ・生徒会役員選挙 ・教育相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童集会（児童会主催のドッジボール大会）の実施 ・法政大学大学生との交流会の実施
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高連携による音楽発表会の実施 ・グループ討議等を取り入れた授業研究 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> *グループ活動等による体験的な学習や話し合い活動を取り入れた授業を公開し、教職員で授業交流を図る。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高連携による音楽発表会の実施

11月	<ul style="list-style-type: none"> グループ討議等を取り入れた授業研究及び授業研究に関する討議の実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">教育相談カードによるアンケートの実施</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px; text-align: center;">小学校第6学年学級担任及び生徒指導担当教諭等を対象とした研修会の実施</div>	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班給食 幼稚園との交流会の開催
12月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">アセスを活用したアンケート調査の実施（小学校第5・6学年、中学校全学年）</div> <ul style="list-style-type: none"> 全校集会、生徒集会の開催（生徒会企画） 生徒指導交流会の実施 教育相談の実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">小学校第6学年児童を対象にした中学校教諭による出前授業（外国語活動・算数）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px; text-align: center;">詳細 p38</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">児童アンケートの実施</div> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談の実施 生徒指導交流会の実施 縦割り班給食 なやみ相談箱の設置（児童会主催） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">北海道電力による理科おもしろ実験教室</div>
1月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px; text-align: center;">小・中・高等学校の児童生徒を対象にした仲間づくり「子ども会議」の実施</div>	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの考察、改善点の策定 学級経営交流会の実施 被災家族との交流会
2月	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談の実施 生徒指導交流会の実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px; text-align: center;">「中1ギャップ問題未然防止事業」第2回検討委員会</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px; text-align: center;">小学校第6学年を対象とした中学校体験学習及びスクールカウンセラーによる講話</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px; text-align: center;">アセスを活用したアンケート調査の実施（小学校第5・6学年、中学校全学年）</div>	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談の実施 生徒指導交流会の実施
3月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">小・中学校教員及びPTAの合同研修会の実施</div> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生を送る会の実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px; text-align: center;">詳細 p35</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px; text-align: center;">「引継ぎシート」を活用した小・中学校の引継ぎ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px; text-align: center;">「中1ギャップ問題未然防止事業」第3回検討委員会</div>	<ul style="list-style-type: none"> 6年生を送る会の実施 幼稚園との交流会の開催

6 事業の成果

- ・中学校第1学年の生徒は、小学校第6学年の際、友達づくりがスムーズに進むように、交流学習を複数回行ってきた。その結果、児童からは「交流を通して知り合った友達に早く再会したい。」といった声が聞かれるなど、中学校への進学に向けた期待を高めることができた。
- ・小学校の統合を控え、学校再編に伴うギャップが生じないよう、小学校第1学年から小学校第5学年についても同様の取組を行ったことにより、児童は過度の不安やストレスを感じることなく、統合した小学校での生活を始めることができた。
- ・研修会において、教員が児童生徒への指導方法や、支援体制づくりのノウハウについて研修し、その内容を自校の教員に還元したことにより、学校全体で指導の充実に役立てることができた。
- ・PTAの意見交換会において、保護者から児童生徒の悩みを直接聞き、児童生徒が抱える課題について共通理解を図るとともに、対応策についての意見を出し合うことにより、子育て等についての保護者の安心感を高めることができた。
- ・中学校における体験入学で小学校第6学年の児童を対象に、スクールカウンセラーによる集団カウンセリングを実施したことにより、中学校に進学するに当たっての悩みや不安を、児童自らの力で解消するスキルを身に付けさせることができた。

7 今後の課題

- ・小・中学校の統合により、9年間を見通して児童生徒を育てていくという観点から、小・中学校の教員が児童生徒の育ちや変容等について常に情報交換し、連携しながら対応していく体制を整える必要がある。
- ・アセスを活用したアンケートは、児童生徒の学校適応感を総合的に判断するための有効な手段であり、小学校における児童アンケートや中学校における教育相談カードによるアンケートと併せて活用することにより、子どもたちの社会的スキルの分析結果を小・中学校間で共有し、9年間を見通して育成を図っていく必要がある。

中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言

中学校に進学する前に実施する中学校における体験入学や出前授業は、中学校の生活がどのようなものかを実際に体験しながら理解できる絶好の機会である。進学先の中学校にとっては、入学してくる児童を事前に把握できる機会であると同時に、児童にとっては、入学前に中学校の先生を知る機会となり、安心感につながる。

小学校における交流学習は、同じ校区にいながら触れ合うことのなかった児童同士が知り合える機会である。この交流を意図的・計画的に進めていくことにより、中学校進学後に生徒同士が互いに声を掛けやすい環境づくりにつながる。

児童生徒の社会的スキルの育成（中1ギャップの解消）には、小・中学校間の綿密な連携や児童生徒相互の交流はもとより、保護者や地域の理解が重要であることから、学校、家庭、地域が一体となった取組を進める必要がある。

当別町立当別中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 当別町立当別中学校（生徒数329名）
連携小学校名 当別町立当別小学校（児童数510名）

本プランの特徴

よりよい人間関係を築く力を育てるために、ピア・サポートを学習しています。
異校種間、異年齢交流を推進するために、児童会生徒会交流・合同ボランティア活動をしています。
小中学校間における教科指導や生徒指導の円滑な接続を図るために、小中教員間の連携（小中交流会や出前授業）をしています。

1 中学校区の特徴

本中学校区は、北海道内の中でも有数の穀倉地帯・豪雪地帯で札幌市、江別市、石狩市に隣接する本町の中心地に位置し、小学校が1校の構成となっている。そのため、中学校入学時に新たな友人との出会いによる人間関係づくりについての不安は少ない。

2 中学校区の課題

本中学校区の児童生徒は、人懐っこく、朗らかで活力があり、学校行事などに積極的に取り組む。しかし、基本的な生活習慣や規範意識が十分に身に付いていない児童生徒もいるため、生徒指導上の問題が見られる。また、場に応じた言葉遣いや行動、苦手なことや難しいことへ粘り強く対処する姿勢、主体的に取り組む姿勢、よりよい人間関係を築く力に多少課題が見られる。

このようなことから、児童生徒の学習状況や生活状況を的確に把握するとともに、小中学校間や家庭との連携により、主体的に学ぶ態度や基本的な生活習慣、よりよい人間関係を築く力を育てる指導を工夫する必要がある。

3 平成22年度までの小・中連携の状況

- ・コーディネーター（本事業の担当教諭）を小中それぞれに配置
- ・中学校から小学校への出前授業（H21年度～書写 H22年度～武道（剣道） H23年度～数学）
- ・生徒会児童会交流と合同ボランティア活動
- ・ピア・サポート講習会の実施
- ・小中引継ぎシート（小中連携シート）の改善

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
当別町立当別中学校	教頭	当別町立当別小学校	教頭
当別町立当別中学校	教務主任	当別町立当別小学校	教務主任
当別町立当別中学校	生徒指導主事	当別町立当別小学校	生徒指導主事
		当別町教育委員会	管理課長補佐
		当別町教育委員会	学校教育係長

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	当別小学校	当別中学校
4月	<p>中1ギャップ解消に向けた取組（計画） 確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動等の対応 ・教育相談の実施計画 	<p>新1年生の生徒理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達と受入体制 ・配慮事項の確認 ・特別な支援を必要とする生徒への指導
5月	<p style="text-align: center;">第1回 当別中学校区中1ギャップ解消検討委員会</p> <p>【メンバー】当別小学校・当別中学校の教頭・教務主任・生徒指導主事、 教育委員会担当（管理課長補佐、学校教育係長）</p> <p>【ねらい】今年度の取組の方向性を確認する。</p> <p>【内 容】（1）1年間の「中1ギャップ解消」に向けた取組の説明及び協議を行う。 （2）新年度1か月間の学校の取組や児童生徒の様子を交流する。</p>	
6月	<p style="text-align: center;">第1回 小中交流会 ◀ 詳細 p33</p> <p>【メンバー】当別小学校・当別中学校の全教職員</p> <p>【ねらい】中学校の教職員が小学校の学習指導について理解を深めるとともに、円滑な 接続のための方策等を協議する。</p> <p>【会 場】当別町立当別小学校</p> <p>【内 容】（1）中学校の教職員が小学校（全学年）の授業を参観する。 （2）「学力」「小中連携」「地域」「生徒指導」の4分科会に分かれ、課題と 方策について協議を行う。</p>	
	<p style="text-align: center;">学校・家庭にかかわる生活アンケート実施</p> <p>1学期間の学校生活、家庭生活の様子について、生徒にアンケートを実施する。 結果を学校全体、学年、各分掌の反省及び2学期の目標の修正等に生かす。</p>	
7月	<p style="text-align: center;">第1回生活アンケート（6領域学校適応感尺度：ASSESS）の実施</p> <p>【ねらい】児童生徒の学校適応へのきめ細かな支援を行うため、実態を把握する。</p> <p>【対 象】当別小学校第5・6学年、当別中学校全学年 各学校のデータは、事業推進の資料として道教委に報告。</p>	
9月	<p style="text-align: center;">第2回 当別中学校区中1ギャップ解消検討委員会</p> <p>【メンバー】当別小学校・当別中学校の教頭・教務主任・生徒指導主事、教育委員会担当</p> <p>【ねらい】これまでの取組の進捗状況を確認するとともに、課題について協議する。</p> <p>【内 容】（1）これまでの取組の反省 （2）6領域学校適応感尺度（ASSESS）の結果活用法について （3）今後の計画について （4）情報交流</p>	
10月	<p>児童会後期役員選挙</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい人間関係づくりへの意識啓発 	<p>生徒会後期役員選挙</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会生徒会交流会の事前の取組の推進
11月	<p style="text-align: center;">◀ 詳細 p45 児童会・生徒会交流会</p> <p>【メンバー】当別小学校児童会役員及び担当教員、当別中学校生徒会役員及び担当教員</p> <p>【ねらい】児童会・生徒会相互の理解を深める。</p> <p>【内 容】（1）児童会・生徒会の取組を交流する。 （2）ボランティア活動における協力体制について協議する。 （3）いじめアンケートの結果を報告し、いじめ根絶に向けた取組を交流する。</p>	

11月	<p style="text-align: center;">詳細 p41</p>	<p style="text-align: center;">ピア・サポート講習</p> <p>【ねらい】生徒相互の理解を深める。 【対象】当別中学校第1学年 【内容】「ピア・サポート＝仲間に対する支援」の基本理念や他者理解、意思疎通の仕方などについて簡単な演習を通して学び合う。</p>
12月		<p style="text-align: center;">全校研修会（コミュニケーション）</p> <p>【ねらい】人とかかわりの大切さについて自覚を深める 【対象】当別中学校全学年 【内容】コミュニケーションスキルの向上を目指し、円滑な人間関係の構築に必要な知識・技能について演習を通して学ぶ。</p> <p style="text-align: center;">第2回生活アンケート（6領域学校適応感尺度：ASSESS）の実施</p> <p>【ねらい】児童生徒の学校適応へのきめ細かな支援を行うため、実態を把握する。 【対象】当別小学校第5・6学年、当別中学校全学年 各学校のデータは、1回目同様、事業推進の資料として道教委に報告。</p>
1月		<p style="text-align: center;">第3回 当別中学校区中1ギャップ解消検討委員会</p> <p>【メンバー】当別小学校・当別中学校の教頭・教務主任・生徒指導主事、教育委員会担当 【ねらい】これまでの取組の進捗状況を確認するとともに、課題について協議する。 【内容】(1) これまでの取組の反省 (2) 6領域学校適応感尺度（ASSESS）の結果（変容）について (3) 次年度の計画について</p> <p style="text-align: center;">入学説明会</p> <p>【ねらい】児童の中学校への不安を取り除き、中学校生活への準備を行う。 【内容】(1) 当別小学校第6学年児童が中学校の授業を参観する。 (2) 体育館で中学校の生活についての説明を聞く。 * 学校行事の説明（生徒会）、中学校生活の基本（教務）、学校生活のきまり（指導部）</p> <p>卒業時期の6年生の人間関係づくり ・ 6年生を送る会 ・ 卒業式に向けた学年、学級の取組 引継ぎに向けた小中連携シートの作成</p>
2月		<p style="text-align: center;">中学校教職員の出前授業交流</p> <p>【ねらい】児童の中学校への不安を取り除き、中学校生活への興味・関心を高める。 【対象・方法】当別小学校第6学年へ中学校教諭が出向き授業を行う。 【内容】数学科</p> <p style="text-align: center;">第3回生活アンケート（6領域学校適応感尺度：ASSESS）の実施</p> <p>【ねらい】児童生徒の学校適応へのきめ細かな支援を行うため、実態を把握する。 【対象】当別小学校第5・6学年、当別中学校全学年</p>
3月		<p style="text-align: center;">中学校への引継ぎ</p> <p>【メンバー】当別小学校の教頭、第6学年担任、特別支援コーディネーター 当別中学校の教頭、教務主任、生徒指導主事、特別支援コーディネーター 【ねらい】新入生の受け入れ態勢や学級編制、指導方法について、事前に打ち合わせ 【内容】小中連携シートを活用し、きめ細かく情報の引き継ぎを行う。 不登校生徒への対応やいじめの未然防止の取組を協議する。</p>

6 事業の成果

- ・昨年度の反省点であった、本事業にかかわる校内の校務分掌間での業務分担が年度当初に適切に行われ、各校の中1ギャップ解消プランが比較的スムーズに運営された。
- ・A S S E S Sの結果を用いた研修会において、実際の教師の観察による見取りとアンケート結果を比較して分析し、児童生徒の状況や学級の傾向などについて新たな視点を見出せたことにより、教員の取組に対する意識の向上が見られた。
- ・例年開催されている教職員間の「小中交流会」において「小中連携～中1ギャップ」を課題とした分科会が設定され、指導の連続性や、共通して指導することについて共通理解を図るなどの成果が見られ、事業の広がりを感じることができた。
- ・ピア・サポート講習会やコミュニケーションスキルにかかわる講習会では、生徒から「人との接し方でこんなに変わるとは思わなかった。これからは注意して生活したい」という声が聞かれるなど、相手意識を高めてコミュニケーションを図ることの大切さに気付かせることができた。
- ・児童会生徒会の交流は、小学生の中学校入学への不安解消や、中学生のリーダー性の育成に効果的であった。特に中学校では、挨拶で明るい学校をつくることを目指し、朝の挨拶運動を行うなど、生徒の自主的な取組を進めることができた。

7 今後の課題

- ・昨年度及び今年度の取組を単純に踏襲するだけではなく、時代の流れや児童生徒の変容など実態に合わせて取組を継続していく必要がある。
- ・生徒指導支援シートについては、今後教務部、研究部と連携して有効な活用の在り方を考えていく必要がある。
- ・各講習会、出前授業のより効果的な開催回数・時期について、検討する必要がある。

中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言

中1ギャップ解消プランの実行には、校内研修などによる学校内教職員の意識改革と小中交流による教職員間の連携が重要である。本中学校区においても、教職員の意識が少しずつ変わってきているが、今後も継続していくことが更なる効果につながると考える。

研修会の演習や講演は、児童生徒のコミュニケーションスキルの知識や技能を向上させる手段としては大きな役割を果たしており、小学校の時からそのような研修会を開催することが重要と考える。

児童と生徒の交流活動については、「児童会」と「生徒会」が交流することでも一定の成果が上げられているが、参加対象を広げ、より多くの人数で交流できると、更に効果的であると考える。

A S S E S Sの結果を分析し、学級や児童生徒一人一人が抱えている課題と指導のポイントを明らかにする取組は、学級経営の改善に向けた手立ての一つとして有効である。

七飯町立大中山中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 七飯町立大中山中学校（生徒数307名）
 連携小学校名 七飯町立大中山小学校（児童数610名）

本プランの特徴

個々の子どもが抱えている中学校生活への不安をアンケートにより把握・分析するとともに、小学校と中学校が連携して、子どもの不安が解消する具体的な取組を進めている。

子どものコミュニケーション能力の育成や生徒指導の機能を生かした教科指導の工夫に努めている。

予防的・開発的な教育相談として、構成的グループ・エンカウンターやピア・サポート等のプログラムを活用し、コミュニケーション能力の育成や互いに支え合う学級づくりを目指している。

1 中学校区の特徴

本中学校区は、函館市に隣接する七飯町の南部に位置し、小・中学校各1校が配置されており、距離も近いことから、新しいクラスで友達をつくれるかどうかなどの友人関係の不安は少なく、また、子どもたちは、中学校での部活動等についての情報もおおむね把握している。

七飯町立大中山中学校においては、不登校傾向を示すなどの顕著な中1ギャップの現象は見られないが、教科担任制の授業や、小学校と中学校の指導方法の違いについてギャップを感じている。

2 中学校区の課題

落ち着いたある生徒が多く、問題行動はほとんど見られない。授業態度や学校の様々な活動へ真剣に取り組む様子が見られるが、小・中学校ともに家庭での学習習慣に課題が見られる。

また、学校生活において自主的・主体的な行動は少ないが、指示されたことはきちんと行う。

3 平成22年度までの小・中連携の状況

- ・生徒指導上の問題等について、定期的な連携体制を整備している。
- ・新入生学校説明会において生徒会による学校紹介を行っている。
- ・PTAが主催し、小・中学校合同で「親睦レクリエーション」を実施している。

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
七飯町立大中山中学校	校 長	七飯町立大中山小学校	事務職員
七飯町立大中山小学校	校 長	七飯町教育委員会	課 長
七飯町立大中山中学校	教 頭	七飯町教育委員会	係 長
七飯町立大中山小学校	教 頭	七飯町教育委員会	指導主事
七飯町立大中山中学校	教 諭	七飯町教育委員会	主 事
七飯町立大中山中学校	教 諭	渡島教育局	指導主事
七飯町立大中山小学校	教 諭		

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	七飯町立大中山中学校	七飯町立大中山小学校
5月	事業推進体制の整備（中心スタッフの任命） 小・中合同実施 ・今後の取組の方向性の確認 ・「中1ギャップ問題未然防止事業」の説明及び協議	
6月	検討委員会の設置及び開催 小・中合同実施 ・今年度の組織体制の確立 ・解消プラン活動計画の検討	
7月	第1回生活アンケート（ASESS）の実施（第1学年）	第1回生活アンケート（ASESS）の実施（第5・6学年）
8月	第1回集団カウンセリング研修会参加（大中山小・中教頭2名参加 8月11日 北海道立研究所） ・仲間づくり、人間関係づくりについて【演習】 ・コミュニケーション能力を高める教育活動の教育課程上の位置付け【講義】 ↓ 校内集団カウンセリング研修会（第1回集団カウンセリング研修会における内容の還元）	
	校内集団カウンセリング研修会（第1回集団カウンセリング研修会における内容の還元）	
	第1回小中合同研修会「生活アンケート（ASESS）の活用について」（8月31日 大中山中学校パソコン室）講師：渡島教育局指導主事 ・生活アンケート（ASESS）の特徴について ・生活アンケート（ASESS）の活用方法について	
9月	校内研修 ・第1回生活アンケート（ASESS）の結果の分析について ↓ 第1回検討委員会（9月12日） ・解消プランの内容の検討 ・生活アンケート（ASESS）の活用方法についての確認	校内研修 ・第1回生活アンケート（ASESS）の結果の分析について ↓ 校内研修 生活アンケート（ASESS）の結果と校内研究（子どもに伝え合う力を育成する教科指導）との関連を明確にし、子どもの人間関係づくりに生かす ↓ 校内研修 生活アンケート（ASESS）の分析結果の「中学校生活で不安なこと」に対するアンケートへの生かし方
10月	第2回検討委員会（10月7日） ・解消プランの内容の検討 ・第1回生活アンケート（ASESS）の分析	
	授業実践 【生徒指導の機能（「自己決定」「自己存在感」「共感的な関係」）を生かした教科指導の実践】 数学科「関数」：生徒が自己決定する場の設定 理科「物質」：共感的な関係を築く話し合いの場の設定 英語「カナダ」：自己存在感を高めるため全員が発言できる発問の工夫 保健体育「健康」：自己決定できるよう考える時間の十分な確保 など	校内研修 ・子どもへのピア・サポート活動の指導方法についての学習会 ↓ 「中学校生活で不安なこと」に対するアンケートの実施（第6学年3学級で実施） ・集計結果から子どもの進学に対する疑問や不安の分析 ・入学説明会における中学生との交流会において小学生の質問に回答するなどの活動
11月		

11月	<p>予防的・開発的な教育相談の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の時間において、構成的グループ・エンカウターの実施 	<p>予防的・開発的な教育相談の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の時間において、構成的グループ・エンカウターの実施
	<p>第2回生活アンケート（ASESS）の実施（第1学年）</p>	<p>第2回生活アンケート（ASESS）の実施（第5・6学年）</p>
12月	<p>校内研修</p>	<p>校内研修</p>
	<p>第3回検討委員会（12月15日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解消プランの内容の検討 ・第2回生活アンケート（ASESS）の分析 ・中間報告書の内容の検討 ・出前授業の内容の確認 ・小中引継ぎシートの検討 ・「中学校生活で不安なこと」に対するアンケートの分析 集計結果より子どもの進学に対する疑問や不安の分析 入学説明会における中学生との交流会において活動 	
	<p>・第2回「生活アンケート（ASESS）の結果の分析</p>	<p>第2回生活アンケート（ASESS）の結果の分析と校内研究（子どもに伝え合う力を育成する教科指導）との関連を明確し、子どもの人間関係づくりを生かす</p> <p>「中学校生活で不安なこと」に対するアンケートの分析 子どもの進学に対する疑問や不安の分析 中学生との交流会における活用方法</p>
2月	<p>第3回生活アンケート（ASESS）の実施（第1学年）</p>	<p>第3回生活アンケート（ASESS）の実施（第5・6学年）</p>
	<p>「出前授業」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校における授業の様子をVTRで紹介 ・数学の授業の体験 	<p>「小・中引継ぎシート」の作成</p>
3月	<p>校内研修</p>	<p>校内研修</p>
	<p>・1年間のまとめ</p> <p>・第3回「生活アンケート（ASESS）の結果の分析</p>	<p>・1年間のまとめ</p> <p>・第3回「生活アンケート（ASESS）の結果の分析</p>
	<p>6年生を送る会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年が心を込めて準備に当たるなど、人間関係づくりへの配慮 	
	<p>「小・中引継ぎシート」の記入</p>	
<p>中学校入学説明会（小・中交流会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生が、中学校における学習や生活、部活動などについて、不安なことや疑問などについて質問をした。それに対して、中学生が「中学校生活で不安なこと」に対するアンケートの分析結果を基に回答するという交流活動を行った。 ・部活動の見学を行った。 ・校内施設の説明、見学を行った。 		
<p>「小・中引継ぎシート」を活用した引継ぎ業務（3月中旬 場所：大中山中学校）</p>		
<p>第4回検討委員会（3月下旬）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解消プランの内容の検証 ・第3回生活アンケート（ASESS）の分析 ・中間報告書の内容の検討 		

6 事業の成果

- ・小学校第6学年の中学校生活への不安をアンケートにより把握・分析したことにより、子どもに中学校における学習や生活への的確にアドバイスし、安心して進学する気持ちをもたせることができた。
- ・小学校において、授業に子どものコミュニケーション能力を育成する学習活動を位置付けたことにより、日常生活において子どもたちが積極的に自分たちの考えを述べたり、交流したりする場面が見られるようになった。
- ・中学校において、生徒指導の機能を生かした授業を展開したことにより、子どもが自己の存在に気付いたり、子ども同士が共感的な人間関係を築いたりするなどの姿が見られるようになった。
- ・予防的・開発的な教育相談を行ったことにより、友達と意思疎通を図り、かかわり合いを深めたり、互いに理解し合い、協力して問題を解決したりするなどの社会生活に必要な力をはぐくむことができた。
- ・生活アンケート（A S E S S）を実施し、その結果を分析したことにより、児童生徒の実態把握に努めることができた。
- ・本中学校区の実態に応じた「引継ぎシート」を開発・活用したことにより、児童の実態を正確に把握した引継ぎを実施することができた。

7 今後の課題

- ・子どもの人間関係を築く力を確実に育成するために、ピア・サポートや構成的グループ・エンカウンターなどを系統的に位置付けた指導計画を作成する必要がある。
- ・小・中学校の子ども同士、教職員同士の交流が少ないことから、今後、意図的、計画的に実施していくよう、連携体制を整備することが必要である。
- ・来年度の公開研究会の開催に向け、中学校区や子どもの実態を踏まえ、どのような提言が有効のかなど、小・中学校合同で検討する必要がある。
- ・今年度は、生活アンケート（A S E S S）の集計、分析に重点をおいて取り組んだが、来年度は、生活アンケート（A S E S S）から生徒指導支援ツールに切り替わることから、その活用方法等について教職員全員で共通理解を図っていくことが必要である。

中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言

小学校段階から、ピア・サポートや構成的グループ・エンカウンターなど特別活動の時間において計画的に実施することにより、子どもの人間関係を築く力を育成することができる。

小学校においては、国語科を中心として子どもに伝え合う力を身に付けさせる校内研究、中学校においては、生徒指導の機能を生かし子どもに自己存在感や自己決定の力を身に付けさせたり、子どもたちに共感的な人間関係を築かせたりする校内研究は、本事業の目的でもある、子どもによりよい人間関係を築く力を身に付けさせる取組として有効である。

小学校第6学年を対象に、中学校生活に対する不安や疑問についてのアンケートを実施し、集計結果から中学校生活に対する意識を分析するとともに、中学生との交流会の中で不安などの解消に向けた取組を行うことは有効である。

江差町立江差北中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 江差町立江差北中学校（生徒数58名）
連携小学校名 江差町立江差北小学校（児童数126名）

本プランの特徴

町の教育行政執行方針に基づいて小中一貫教育を推進しています。
組織を確立し、定期的な交流等を通して、小学校、中学校の連携を強化した取組を推進しています。
小・中が合同で9年間を見通したカリキュラムを作成しています。

1 中学校区の特徴

江差町の北部に位置し、水田や畑が広がっている平野部、海岸線に沿って開けている地域と変化に富んでいる。近年、柳崎地区周辺に病院、高校、アパート等の施設が建設され、人口は増加傾向を示している。

2 中学校区の課題

本中学校区は、江差北小・中学校で構成される。両校は、校舎が棟続きとなっているという条件を生かし、町教育委員会との連携のもと、23年度から小中一貫教育を本格的に実施している。

児童生徒は、全体的に明るく素朴であり、楽しく学校生活を送っている反面、基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身に付いていない児童生徒もおり、学力差が大きい。

また、幼い頃から人間関係が固定化し、新たな関係を構築することが、難しいことから、学校生活になじめなくなり、不登校傾向になる生徒が増加している。

3 平成22年度までの小・中連携の状況

- ・小中合同の生徒指導事例研修会の実施
- ・小中間の授業参観及び授業交流会の実施
- ・相互乗り入れ授業の実施（小学校第5学年外国語活動への乗り入れ、中学校第1学年数学への乗り入れ）
- ・小学校第6学年の部活動への体験入部の実施

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
江差北中学校・江差北小学校	校長・教頭・一貫教育コーディネーター	江差北中学校区青少年健全育成会 北海道教育庁檜山教育局 江差町教育委員会	会長 指導主事 学校教育課長 指導主事
江差小学校	校長		
南が丘小学校	校長		
江差中学校	校長		
江差北中学校PTA	会長		
江差北小学校PTA	会長		

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	江差北小学校	江差北中学校
年度未 までに	平成23年度生徒指導全体計画、特別活動全体計画、特別支援教育計画の作成（目標、重点、方策）	平成23年度生徒指導全体計画、特別活動全体計画の作成 平成23年度入学生の情報交換（特別に配慮が必要な児童について）
4 月	生徒指導全体計画についての共通理解 ・問題発生時の対応の仕方 ・いじめ発生時の対応 ・不登校児童への対応 ・教育相談の計画 特別支援教育計画について ・特別支援教育の進め方 ・交流学习の進め方 特別活動全体計画についての共通理解 ・縦割り班活動の目標設定と指導の重点 ・活動計画と評価方法の検討	1学年部会の実施 ・新1年生の情報交流 ・新1年生の受入体制と配慮事項等の確認 部活動入部へ向けた取組 ・指導部による仮入部期間の生徒への援助 ・本入部後の部活動顧問との連携
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 第1回一貫教育活動日 23年度の一貫教育の推進について確認 グループメンバーの確認 前期の縦割り班の編成・活動計画の立案 ・縦割り班による清掃活動の開始 </div> <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> 詳細 p31 </div>		
5 月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第2回一貫教育活動日 ○全体会 授業交流の話し合い（中学校の先生方が小学校の授業の参観） グループ別活動（学習指導・生徒指導） ・具体的活動計画作成 ・郷土学習洗い出しアンケート検討 ・算数・数学つまずきアンケート検討 </div>	
6 月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第3回一貫教育活動日 グループ別活動（学習指導・生徒指導） ・郷土学習・つまずきアンケート集計 ・合同避難訓練案検討 ・生徒指導交流会内容検討 </div>	
	第1回「アセス」の実施	第1回「アセス」の実施 「心の健康観察」 教育相談
7 月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第4回一貫教育活動日 全体会 生徒指導交流会 </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第1回「アセス」分析検討会 1 メンバー 小・中学校長、小・中学校教頭、教務主任、小・中一環学習・生活グループリーダー、養護教諭 2 内容 分析結果と2学期の指導の重点の確認 </div>	
	合同参観日 ○乗り入れ授業（英語5年）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 詳細 p40 </div> 合同参観日 ○乗り入れ授業（数学1年） 2年生 宿泊研修 ・人間関係づくりに配慮
8 月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 一貫教育講演会 演題「人間力を育む小中一貫教育の充実と地域との共創」 講師 千葉大学教授 天笠 茂 先生 </div>	
	○乗り入れ授業（英語5年）	カウンセリング研修

9 月	<p style="text-align: center;">第 5 回一貫教育活動日</p> <p style="text-align: center;">全体研修 ・ アンケート結果についての全体検討</p>	
	<p>○合同グリーンスクール・砂坂海岸林の清掃活動 乗り入れ授業（英語 6 年） 縦割り班活動 ・前期活動の反省 ・後期の縦割り班の編成及び活動計画の立案</p>	<p>○合同グリーンスクール 乗り入れ授業（数学 1 年） カウンセリング研修 の還流 「心の健康観察」 教育相談</p>
1 0 月	<p style="text-align: center;">第 6 回一貫教育活動日</p> <p style="text-align: center;">○各部会 ・ 算数・数学指導の重点化資料の作成</p>	
	<p>乗り入れ授業（英語 6 年） 第 2 回「アセス」の実施</p>	<p>○乗り入れ授業（数学 1 年） 第 2 回「アセス」の実施</p>
	<p>吹奏楽交流会 赤い羽根街頭募金活動</p>	
1 1 月	<p style="text-align: center;">第 7 回一貫教育活動日</p> <p style="text-align: center;">各部会 ・ 中学校数学カリキュラム作成 ・ 振り返りテスト検証 ・ 「えさし学」原案作成</p>	
	<p>部活動への体験入部の実施</p>	
	<p>○江差町小中一貫教育公開研究会 ・ 乗り入れ授業 （英語小 6） ・ 全校スキル学習 ・ 講演会 演題 「中 1 ギャップを未然に防止する」 講師 北海道医療大学 富家直明准教授</p>	
1 2 月	<p style="text-align: center;">第 8 回一貫教育活動日</p> <p>○全体会 ・ 公開研究会 評価とまとめ ・ 授業交流の話し合い ・ 生徒指導交流会 ○各部会 「えさし学」の内容検討</p>	
	<p>第 2 回「アセス」分析検討会 1 メンバー 小・中学校長、小・中学校教頭、教務主任、小・中一貫学習・生活グループリーダー、養護教諭 2 内容 ・ 分析結果及び情報交換</p>	
1 月	○第 3 回アセスの実施	<p>○第 3 回アセスの実施 ○カウンセリング研修</p>
2 月	○カウンセリング研修 の還流	
	<p style="text-align: center;">第 9 回一貫教育活動日</p> <p style="text-align: center;">全体会 「えさし学」検討</p>	
	<p>中学校入学説明会 ・ 小学 6 年生の児童が中学校の授業に体験的に参加し、中学校生活への不安の軽減</p>	
	<p>特別支援教育情報交流会 小学校 6 年で支援を必要とする児童の受入れ体制や注意事項等について検討</p>	
	<p>算数・数学カリキュラム完成</p>	
3 月	<p style="text-align: center;">第 1 0 回一貫教育活動日</p> <p>2 3 年度一貫教育の推進についての総括・展望 「中 1 ギャップ」問題未然防止事業の総括・展望</p>	
	<p>小・中引き継ぎ ・ アセスデータによる引き継ぎ</p>	
	<p>詳細 p36</p>	

6 成果

- ・コーディネーター会議を核とした組織推進体制を確立し、義務教育9年間を見通した一貫指導の構想に基づく学習指導・生徒指導の取組の充実が図られたことにより、「中1ギャップ」問題の未然防止に生かされた。
- ・小・中学校の教職員が、児童・生徒に対する指導のあり方を協力して検討・協議することにより、相互乗り入れ授業の改善充実が図られ、児童・生徒の学習意欲の喚起や学習内容の理解に結びついた。また、小学校外国語活動への乗り入れ授業を通じて、コミュニケーション能力の向上が図られた。
- ・算数・数学の「単元・系統一覧表」を基に、指導することができた。また、「つまずきチェックシート」や「ふりかえりテキスト」などの教材を小・中学校が協力して開発し、授業や家庭学習の中で活用した。
- ・生活アンケート（アセス）の結果を盛り込んだ「小中連携支援シート」を作成し、小・中学校の引き継ぎに活用したところ、中学校における生徒指導の充実に役立った。
- ・大学生等と連携し、児童・生徒のコミュニケーション能力の向上を図る取組を実施した。
- ・中学校において、年間を通じて「コミュニケーション・スキル学習」を計画的に実施し、生徒のコミュニケーション能力の向上が図られた。
- ・中学校区公開研究会を開催し、本校区における「小中一貫教育」を通じての「中1ギャップ」問題の未然防止に関わる取組を管内の学校や他の指定校地域に積極的に普及・啓発した。

7 次年度に向けての課題

- ・「中1ギャップ」問題の未然防止に向けた取組を、小中両学校の教育課程に明確に位置付けるなど、9年間を見通した教育課程の改善・充実に取り組んでいく必要がある。
- ・算数・数学における一貫指導や本事業に関わるスキル学習などの取組を通じて、児童生徒がどのように変容したかを継続して検証していく手段や方法を明確にする必要がある。

中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言

本中学校区では、平成23年11月、これまでの小中一貫教育の取組及び「中1ギャップ」問題の未然防止に向けた取組についての普及・啓発を目的とした公開研究会を開催した。研究会は、小・中学校が過去3年間にわたり培ってきた、コーディネーターを中心とする協力体制によって成功裡に終えることができた。各中学校区では、協力体制の構築と小・中学校の教職員同士の信頼関係の構築にじっくりと取り組む必要があると考える。

取組の多様化が進み、今後も持続可能な取組とするためにどのように進めるべきかという検討が必要になってきた。中1ギャップ問題の未然防止への取組を進めていく上で、拠点校と連携校における課題を洗い出し、組織的・計画的に取組を進める必要があると考える。

本中学校区は、これまで蓄積してきた実践が多くあり、小・中学校が隣同士であるという恵まれた立地条件であるが、教職員の異動などによる、取組の継続への課題等を解消できるよう、コミュニケーションスキルを高める活動を教育課程に位置付けたり、算数・数学の年間指導計画の改善・充実を図ったりするなど、組織的・計画的な実践を進めていきたいと考えている。

上富良野町立上富良野中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名	上富良野町立上富良野中学校	(生徒数 300名)
連携小学校名	上富良野町立上富良野小学校	(児童数 476名)
	上富良野町立上富良野西小学校	(児童数 154名)
	上富良野町立江幌小学校	(児童数 13名)

本プランの特徴

- 小・中学生、高校生のリーダーが集う「なかよしサミット」を実施しています。
- 「中1ギャップ解消」に向け、既存の組織を活用した推進体制を確立しています。
- 児童生徒を対象とした生活アンケートを活用し、小・中合同での分析、交流を実施しています。

1 中学校区の特徴

本中学校区は、上富良野町の中央部に位置し、校区には、学校規模の異なる小学校3校を有している。保護者は、学校の教育活動に対して協力的であり、学校行事等への参加率も高い。また、学習指導に対する関心が高く、子どもへの期待感が強い。

2 中学校区の課題

本校の生徒は、明るく素直で純朴であり、全体的にのびのびとおおらかである。学校行事、奉仕活動、部活動等に積極的に取り組んでおり、特に、部活動については、数々の好成績を納めている。

学力は高く、平成22年度全国学力・学習状況調査では国語A・B、数学A・Bともに、全国の平均正答率を上回っている。一方、何事に対しても慎重な面があり、自主的・自立的な態度や社会性については課題が見られ、今後、自主的・自立的な態度の育成に向けた取組を充実するとともに、思いやりの心をはぐくむ教育活動を展開する必要がある。

3 平成22年度までの小・中連携の状況

- ・小・中学校合同の上富良野町生徒指導推進協議会の実施
- ・小・中学校及び関係機関との連携を図った特別支援連絡協議会の実施
- ・上富良野町外国語活動推進委員会による乗り入れ授業の実施
- ・小・中学校及び高等学校の児童会、生徒会が集い、いじめのない、みんなが楽しく通学できる学校づくりや命の大切さ等について考える「なかよしサミット」の開催

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
上富良野町立上富良野中学校	校長	上富良野町立上富良野西小学校	教頭
上富良野町立上富良野中学校	教頭	上富良野町立上富良野西小学校	教諭(6年担任)
上富良野町立上富良野中学校	教諭(生徒指導)	上富良野町立江幌小学校	教頭
上富良野町立上富良野中学校	教諭(研修)	上富良野町立江幌小学校	教諭(5・6年担任)
上富良野町立上富良野中学校	教諭(生徒会)	上富良野町教育委員会	学校教育班主幹
上富良野町立上富良野小学校	教頭	上富良野町教育委員会	学校教育アドバイザー
上富良野町立上富良野小学校	教諭(6年担任)		

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	上富良野中学校	上富良野小学校、上富良野西小学校、江幌小学校
3月～ 4月	各小学校との新1年生についての状況把握 ・新1年生の交友関係、生活状況等 ・入学後の配慮事項の確認	中学校への情報提供
5月	第1回「なかよしサミット」打合せ（上富良野町生徒指導推進協議会） ねらい、内容、重点等の確認 実施期日、各校の役割等の確認	
6月	中1ギャップ問題未然防止事業の事業内容の確認（各校代表者）	
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 第1回 上富良野中学校区中1ギャップ検討委員会 中1ギャップ解消に向けた事業内容及び組織の確認 年間の活動計画の作成 </div>	
	第2回「なかよしサミット」打合せ（上富良野町生徒指導推進協議会） 実施内容の検討	
7月	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 中1ギャップ問題未然防止学習会 中1ギャップの発生原因や未然防止の考え方等についての学習会 【講師】学校教育局参事（生徒指導・学校安全）主査 </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第1回生活アンケート（アセス）の実施 上富良野中学校全校生徒及び各小学校5・6年生を対象に実施 各学校のデータを道教委に提供 </div>	
8月	第1回生活アンケートの分析	第1回生活アンケートの分析
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「なかよしサミット」の実施（上富良野町生徒指導推進協議会） テーマ「いのち」 ・「いのち」に関するグループ討議 </div>	
9月	第1回生活アンケートを活用した 教育相談の実施	第1回生活アンケートを活用した 教育相談の実施
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「なかよしサミット」反省（上富良野町生徒指導推進協議会） 次年度の方向性の確認 </div>	
	教育相談の結果の交流	
	部活動と少年団（小学校）の交流（10月まで）	

時 期	上富良野中学校	上富良野小学校、上富良野西小学校、江幌小学校
10月	生徒指導交流会の実施	生徒指導交流会の実施 小学校学習交流会 小規模校と大規模校の学習等の交流
11月	<p>第2回生活アンケート（アセス）の実施 上富良野中学全校生徒、各小学校5・6年生を対象に実施 各学校のデータを道教委に提供</p> <p>第2回生活アンケートの分析</p> <p>江差北中学校区研究会参加</p>	<p>第2回生活アンケートの分析</p>
12月	<p>第2回 上富良野中学校区中1ギャップ検討委員会 江差北中学校区研究会についての報告 生活アンケート（アセス）結果の交流 小・中学校の引継ぎ様式の検討 家庭環境調査シートの共有化に向けた検討 中学校体験入学の内容の検討</p>	
1月	<p>小・中学校の引継ぎ様式及び家庭環境調査シートの検討</p> <p>中1ギャップ問題未然防止学習会 心理的支援の方法と考え方について の中学校学習会 【講師】臨床心理士 松田 剛氏</p>	<p>詳細 p37</p>
2月	<p>第3回 上富良野中学校区中1ギャップ検討委員会 生活アンケート（アセス）結果の交流 小・中学校の引継ぎ様式の決定 家庭環境調査シートの様式の決定 中学校体験入学の検討</p> <p>上富良野中学校体験入学</p>	
3月	<p>第3回生活アンケート（アセス）の実施 上富良野中学全校生徒、各小学校5・6年生を対象に実施 各学校のデータを道教委に提供</p> <p>第3回生活アンケートの分析</p> <p>平成23年度の実践の反省</p>	<p>第3回生活アンケートの分析</p>

6 事業の成果

思春期の繊細な内面へのきめ細かな対応、人間関係を形成する力の育成、小・中学校の緊密な連携体制の整備の三点を意識して事業を推進してきた。各項目における成果は次のとおりである。

- ・ 思春期の繊細な内面へのきめ細かな対応

年間に3回実施した生活アンケート（アセス）の結果を詳細に分析するとともに、その結果を学級経営や教育相談等に活用したことで、児童生徒の心に寄り添った指導の充実を図ることができた。

- ・ 人間関係を形成する力の育成

例年行っている「なかよしサミット」を今年度も実施し、「いのち」をテーマに協議したことで、いじめ根絶に向けた意識の高揚を図るとともに、よりよい人間関係を形成する力を向上させることができた。

- ・ 小・中学校の緊密な連携体制の整備

中1ギャップ検討委員会を立ち上げ、参観日を小・中学校が互いに公開したり、家庭環境調査や小・中学校引継ぎの様式について検討を重ねたりしたことで、中1ギャップに係る小・中学校教職員の連携意識が高まった。

7 今後の課題

- ・ 年間を通して、小・中学校が連携して組織的な対応ができるよう、体制整備の一層の充実を図る必要がある。
- ・ すべての子どもに人間関係を形成する力が育成されるよう、より多くの児童生徒がかかわる取組を計画的・継続的に行う必要がある。
- ・ 保護者や地域と連携し、「中1ギャップ解消」に取り組むことができるよう、本事業についての情報提供を工夫する必要がある。

中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言

「中1ギャップ解消」に向けては、小・中学校の教職員の共通理解のもと組織的に推進していくことが大切であることから、既存の組織である生徒指導推進協議会や特別支援連絡協議会を活用し、推進体制の構築を図る。

「中1ギャップ解消」に向けては、小学生が中学校に対して抱く不安等を解消することが大切であることから、「なかよしサミット」の取組の充実を図り、小・中学生が、不安や悩み等について交流し合う場を設定する。

「中1ギャップ解消」に向けては、児童生徒の理解が大切であることから、生活アンケート（アセス）を継続的に実施し、きめ細かく心の変化を見取り、指導の充実に生かす。

釧路市立青陵中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名	釧路市立青陵中学校（生徒数 417 名）
連携小学校名	釧路市立清明小学校（児童数 432 名） 釧路市立湖畔小学校（児童数 345 名） 釧路市立武佐小学校（児童数 151 名）

本プランの特徴

- 小中連携による I S S Y 集会や地域交流合唱祭を中心として、人間関係づくりの能力を高めます。
- 生活アンケートを基に教育相談を行い、児童生徒の客観的な理解に努めます。
- 小中教員による合同研修会を行い、教員間の交流を深め、課題の共有化を図ります。

1 中学校区の特徴

青陵中学校は、武佐地区を中心とする武佐中学校と緑ヶ岡地区を中心とする緑陵中学校の2校が統合し、平成16年4月に開校した学校である。釧路市の東部に位置し、校区付近には、幼稚園から大学までの各学校があり、特に高校が多くある。また、図書館や博物館などにも近く、教育環境に恵まれた地域でもある。地域住民の教育への関心は高く、ボランティア部と一緒に活動する町内会もあるなど、学校の教育活動に対しても協力的な地域である。

2 中学校区の課題

本中学校区には3つの小学校があるが、中学校進学後、いじめの認知件数や学校生活に適應できず不登校となる生徒が増加傾向にある。この原因としては、社会的スキルの定着が不十分であるという個人的要因や家庭環境、中学校進学に伴う大きな環境の変化等が考えられる。そこで、子供の人間関係づくりや小・中学校間の連携等を促進するため、いじめ未然防止プログラム（I S S Y 運動）や地域交流合唱祭、児童生徒の客観的な理解を中心として、中1ギャップ問題の解消を目指して取り組んでいく。

3 平成22年度までの小中連携の状況

- ・「I S S Y 運動」（いじめ撲滅運動）～平成19年度から青陵中学校生徒会が中心となって取り組み、平成21年度には校区小学校と連携して「いじめ予防地域集会」を開催している。
- ・小学校外国語活動の出前授業～平成20年度から校区小学校の6年生に対して、中学校教員による指導を行っている。
- ・新年度入学生の情報交換～平成22年度より生活アンケート「アセス」結果と小中連携支援シートを活用した小・中学校間の情報交換会を実施し、新入生の実態把握に努めている。

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
釧路市立青陵中学校教諭	生徒指導部長	釧路市立湖畔小学校教諭	生活部長
〃	生徒会担当	〃	6 学年主任
釧路市立清明小学校教諭	教務主任	〃	児童会担当
〃	6 学年担任	釧路市立武佐小学校教諭	生活部長
〃	5 学年担任	〃	6 学年担任
		〃	児童会担当

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	清明・湖畔・武佐小学校	青陵中学校
4月	新入生への世話活動 (清明小・武佐小・湖畔小) あいさつ運動(清明小) ・笑顔あふれる、ふれあいの機会 あいさつ運動(武佐小：毎月) 校内支援委員会(武佐小) ・特別な支援を要する児童の情報共有	対面式 ・ピア・サポートプログラムの導入 ・新入生への歓迎メッセージ 新入生オリエンテーション ・中学校生活の基本 生徒理解研修 ・特別な支援を要する生徒の情報共有
5月	児童理解研修(湖畔小) ・特別な支援を要する児童の情報共有 あいさつ運動(湖畔小：5月～10月)	1学年交流行事 ・学級集団づくり
	【第1回中1ギャップ検討委員会】(清明小・湖畔小・武佐小・青陵中) ・今年度の組織体制づくり ・解消プラン活動計画の検討	
6月	武佐小声かけ運動(武佐小：毎月) ・「ほんわか言葉」(やさしく温まる言葉)で話そう 休み時間交流(清明小)	
	運動会異学年共同種目 (清明小・湖畔小・武佐小) ・異学年の組み合わせによる競技 給食交流(清明小) Q-Uテストの実施(1年～4年)	・学年部会での結果交流と教育相談 釧路市児童生徒健全育成標語作成 いじめアンケート ・ISSY集会で活用
【生活アンケート：「アセス」】(清明小・湖畔小・武佐小・青陵中) ・学校環境適応感の把握		・結果分析と交流 <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 詳細 p50 </div>
7月	休み時間交流(清明小) ・異学年による集団遊び 地域ドッジボール大会(湖畔小)	教育相談週間 ISSY集会 ・いじめ撲滅全校集会 ・いじめについて考える授業(学級) ・ISSYワードチャレンジウィーク
8月	【中学校区中1ギャップ合同研修会】(清明小・湖畔小・武佐小・青陵中) ・教職員に対して中1ギャップ問題への理解を深める 中1ギャップの現状 予防的・開発的教育相談 <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 詳細 p34 </div>	
	校内支援委員会(武佐小) 給食交流(清明小)	校内研修(生活アンケート：「アセス」の活用)
9月	ハッピーデイ-1(武佐小) ・全校の友達とふれあおう 交流給食(湖畔小)	青陵祭 ・学級内の人間関係づくりと異学年交流
	【第2回中1ギャップ検討委員会】(清明小・湖畔小・武佐小・青陵中) ・地域交流合唱祭について最終確認	

10月	校内支援委員会(武佐小) ハッピーデー-2(武佐小) ・全校で楽しくふれあおう	・ピア・サポートプログラムの導入
	【小学校外国語活動出前授業】(青陵中 清明小・湖畔小・武佐小) ・中学校英語科教諭による外国語活動の指導	
11月	【地域交流合唱祭】(清明小・武佐小・青陵中) ・自分のよさの理解と自己有用感 ・小6・中2の給食交流	
	・ブロック縦割交流合唱 ・参観保護者の給食試食会	← 詳細 p44
	集団縦割り遊び(湖畔小:~2月) Q-Uテストの実施(1年~4年) 交流給食(武佐小)	学校運営協議会 ・中1ギャップ解消プランの意見交流 教育相談週間
【生活アンケート:「アセス」】(清明小・湖畔小・武佐小・青陵中) ・学校環境適応感の把握		・結果分析と交流
12月	【第3回中1ギャップ検討委員会】(清明小・湖畔小・武佐小・青陵中) ・ISSY集会に向けて	
	・小中連携シートの検討	教育相談週間 学校評価による分析
1月	校内支援委員会(武佐小)	
	【児童会・生徒会交流】(清明小・湖畔小・武佐小・青陵中) ・ISSY集会への取組確認	
	【ISSY集会】(清明小・湖畔小・武佐小・青陵中) ・他人のよさを認める態度 ・ISSYワードを積極的に使う意欲	
		・自分のよさの理解と自己有用感 ・児童会・生徒会交流会の実施
2月	【中学校体験入学】(清明小・湖畔小・武佐小) ・中学校生活の理解	
	・中学生への心構え	
	【新年度入学生保護者説明会】(青陵中) ・保護者に対して中学校生活の概要を理解してもらう 学習面について 健康面(心と体の成長の特徴)	
	生活面について(服装、持ち物など) 入学式に向けての準備について	
【生活アンケート:「アセス」】(清明小・湖畔小・武佐小・青陵中) ・学校環境適応感の把握		・結果交流と教育相談
地域カルタ大会(湖畔小)		
3月	6年生を送る会 (清明小・武佐小・湖畔小) ・ピア・サポートプログラムの導入	学級編制作業~1学年部会 次年度の新入生歓迎会の企画 ・ピア・サポートプログラムの導入
	【新年度入学生の情報交換会】(清明小・湖畔小・武佐小・青陵中) ・6年生の学習や生活状況の把握(小中連携シートの活用) ・特別な支援を要する児童の把握	
		・生活アンケート:「アセス」の引継 学級開きに向けた準備

6 今年度の成果

- ・ I S S Y 集会や地域交流合唱祭、小学校外国語活動の出前授業等、小・中学校間の交流活動の実施によって、小学校児童が早い時期から中学校生活を意識するようになり、中学校入学に対する不安を軽減し、中学校進学への期待を高めることができた。
- ・ 小学校異学年交流活動では、ピア・サポートプログラムを導入し、上級生がリーダーとして活躍することで自己有用感を育み、学校生活への自信を高めることができた。また、地域交流合唱祭においても、中学校2年生が小学校6年生を指導する場面や給食交流の時間を設定するなど、互いに支え合う活動を通して、児童生徒間の良好な人間関係を育成することができた。
- ・ いじめ撲滅運動としての I S S Y 運動を生徒会が主体的に推進していく中で、児童会・生徒会の交流が図られ、I S S Y 運動を発展させることができた。特に今年度は、冬季休業中の2日間を利用して実践交流や I S S Y 集会の準備を行ったことで、児童生徒間の連携・交流を一層深めることができた。
- ・ 生活アンケート「アセス」の実施により、学級適応感をはじめ、社会的スキルの定着状況や学習状況等を客観的に捉えることで、学校不適応の兆候の早期発見が可能となり、児童生徒に対する適切な支援に結び付けることができた。
- ・ 生活アンケート「アセス」の結果と小中連携支援シートを活用した小学校からの引継により、中学校1年生において、よりバランスのとれた学級編成が可能となる他、適切な生徒理解や支援の充実につながった。

7 次年度に向けての課題

- ・ 実践した様々な活動をより一層計画的、継続的に実施できるよう、4校で詳細な打合せを行い、年間計画を整備する。
- ・ 地域交流合唱祭における小・中学校間のピア・サポートプログラムを効果的に行うためには、4校で学校行事を調整し、活動時間を確保する必要がある。
- ・ 中学校からの企画・提案だけでなく、小学校からの企画・提案を取り入れた I S S Y 集会となるよう、小中間の連携を更に深めていく必要がある。
- ・ 小・中学校間の交流活動やピア・サポートプログラムの有効性を検証するために、生活アンケート「アセス」を継続し、活動の充実を図っていく。

中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言

本事業の実践を通して「小・中学校の教職員のつながりが真の小中連携のスタートとなる」ということを改めて感じた。特に、長期休業中に小中合同の研修会を2年間継続して実施したことにより、中1ギャップへの共通理解が深まり、各学校で児童生徒の人間関係づくりの能力の育成を図る活動が充実した。

4校の生徒指導主事や児童会・生徒会担当教諭、6年担任等で組織した検討委員会の委員を数年間継続したことにより、交流事業を充実させることができた。

中学校から小学校への働きかけが大切であり、一つの交流事業をきっかけとして、児童会・生徒会交流にとどまらず、6学年全体と中学生の交流事業に発展させるなど、できることから始めることで、次の活動へと広がっていく。

1 小・中学校の緊密な連携

(1) 推進体制の確立

既存の組織等を活用した取組

上富良野町立上富良野中学校

効果的な取組とするためのポイント

中1ギャップ未然防止事業をスムーズに推進するため、町内の既存の組織を活用した取組を推進した。

小・中学校の緊密な連携を図るため、これまでの引き継ぎの様式や家庭環境調査票の見直しを図った。

取組の実際

1 既存の組織を活用した取組

中1ギャップ未然防止事業は4つの小・中学校が連携して取り組むことから各学校の教職員間の共通理解を図ることが必要である。そのため小・中学校の連携を図るに当たり、既存の組織を活用して小・中学校の連携を図ることとした。

上富良野町には、各小・中、高等学校や関係機関等が相互理解と連携を深めて協力し、児童生徒の健全育成に努める生徒指導推進協議会が組織されている。さらにいじめのない学校づくりやみんなが楽しく通学できるようにするための方法を話し合う場として、毎年、生徒指導推進協議会が主管して「なかよしサミット」を実施している。この取組の中1ギャップの解消のための取組の一つとして活用した。この話し合いを通して、子どもたちの人間関係を築く力の育成を図ることができた。

2 既存の取組の見直し

中1ギャップの解消のためには、小・中学校間の円滑な接続が欠かせない。そのため、今年度においては既存の引き継ぎの様式や家庭環境調査票をより実効性のあるものとするため、中1ギャップ検討委員会において、その見直しを図った。

進級No	1	クラス	2	小学校	〇〇小	氏名	上富 太郎	性別	男
国語	67	数学	65	合計	132	順位	2	少年団	陸上
リーダー	◎	ピアノ		運動	○	長欠傾向		PTA役員	◎
健康面の留意事項									
その他の留意事項									

入力したシートは、自動的にこのような単票になる。中学1年生から2年生に進級する際の学級編制にも利用できるようにしている。

既存の引き継ぎ資料や家庭環境調査票の見直しを進める中で、小学校が重視している情報と中学校が必要としている情報にギャップがあることが分かったため、検討委員会において協議し、指導等に関する共通理解を深めることができた。



この用紙は小学校5年生から中学校3年生まで使用します。年度当初にお返ししますので、当該学年分の記載、変更があれば訂正し、転送用紙を添付して担任まで再提出をお願いします。

秘 家庭環境調査票

本人	ふりがな	学校			小学校	中学校	
	氏名	学年	5年	6年	1年	2年	3年
保護者	ふりがな	性別	男	女	生年月日	H. 年 月 日	
	氏名	続柄	勤務先	勤務先	勤務先		
保護者	ふりがな	続柄	勤務先	勤務先	勤務先		
	氏名	続柄	勤務先	勤務先	勤務先		
現住所		上富良野町			自宅持ち		
転居した理由		上富良野町			転居先		
転居時の連絡先		続柄()	氏名()	続柄()	氏名()	続柄()	氏名()
電話番号		番号	番号	番号	番号		
HOOには、校種・学年・クラスも記入ください。							
家族	氏名	続柄	H24	H26	H26	H27	H28
本人	健康面・生活面での配慮(アレルギー・持病等)			習い事・少年団・部活		通学距離・方法	
	小5	小6	中1	中2	中3	夏季	冬季
保護者の所在			・在宅		・不在		
集団下校時の対応			・自宅		・放課後クラブ		
下配住所			氏名		連絡先		
氏名			連絡先		通学距離		方法
氏名			連絡先		・徒歩		・徒歩
氏名			連絡先		・自転車		・バス
氏名			連絡先		・バス		路線名
氏名			連絡先		停留所名		
氏名			連絡先		・徒歩		・徒歩
氏名			連絡先		・自転車		・バス
氏名			連絡先		・バス		路線名
氏名			連絡先		停留所名		
氏名			連絡先		中1		中2
氏名			連絡先		中3		
氏名			連絡先		小5		小6
氏名			連絡先		中1		中2
氏名			連絡先		中3		
氏名			連絡先		認		証
氏名			連絡先		印		

成果と課題

既存の組織を活用することで、スムーズに中1ギャップの解消に向けた取組を推進することができた。

引き継ぎシート等を見直しを通して、異校種における指導の在り方について理解を深め、小・中学校間の教員の共通理解を図り、小中学校の緊密な連携を図ることができた。

既存の取組に止まらず、小・中学校が連携を図った新たな取組を推進する必要がある。

1 小・中学校の緊密な連携

(1) 推進体制の確立

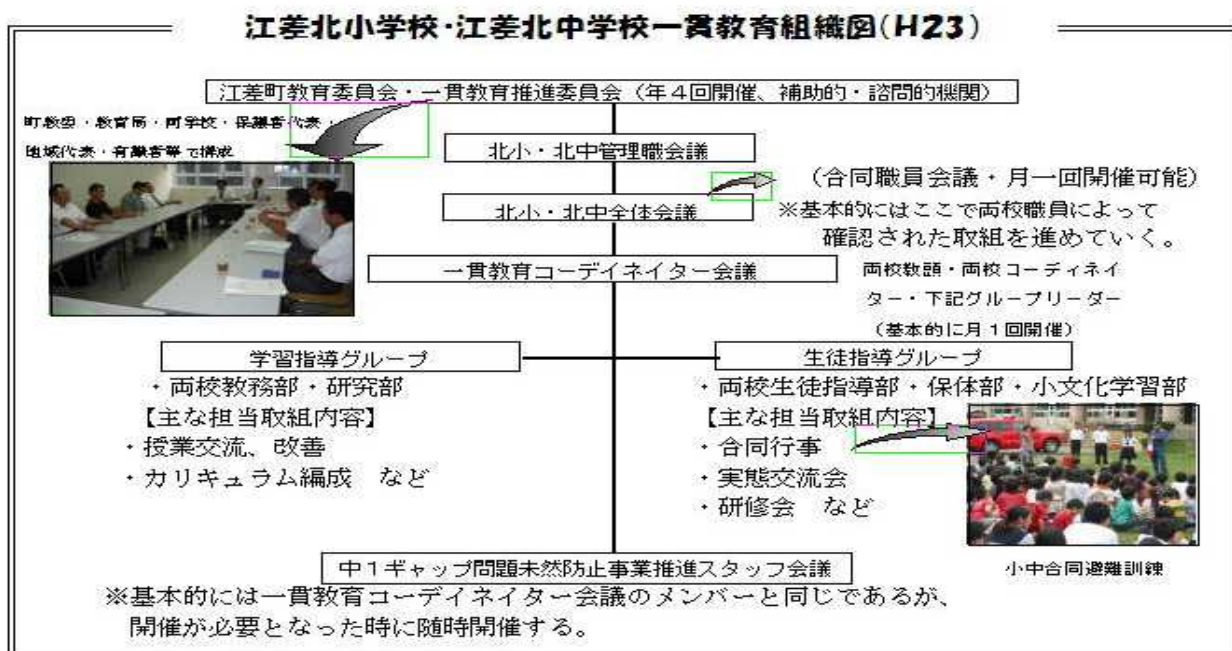
コーディネーターの役割を明確にした
推進体制の確立

江差町立江差北中学校・小学校

効果的な取組とするためのポイント

江差北小・中学校では、先行してスタートした小中一貫教育の推進体制を活用しながら「中1ギャップ」問題の未然防止に取り組んできた。義務教育9年間を見通した一貫指導の取組を一層充実させるためには、両学校の「橋渡し役」となるコーディネーターの存在が極めて重要である。本中学校区において「一貫教育コーディネーター会議」を中心とした小中一貫教育の推進体制を整え、小・中学校の教職員の共通理解を図った。

取組の実際



一貫教育コーディネーター会議の役割・機能など

- 一貫教育コーディネーター会議では、小・中学校が協働体制で取り組む「中1ギャップ」問題未然防止事業の推進に関わるすべての業務の連絡・調整・確認・企画立案などを図る。
- 一貫教育コーディネーターは、小中管理職会議、学習指導・生徒指導グループから出された案件について、小・中学校双方の課題等に合わせ、調整する。
- 一貫教育コーディネーターは、基本的に教務主任とし、両校による連携を密にする。

成果と課題（成果 課題）

両校にコーディネーターを置くことで職員全体に中1ギャップ問題の未然防止への考え方が浸透し、各グループのリーダーとの連絡・調整を密にすることで小・中学校の円滑な接続が図られた。

一貫教育コーディネーター会議の中で、中1ギャップ問題の未然防止に向けた具体的な取組についての協議を深めることにより、活動が明確になり、重点化が図られた。

一貫教育コーディネーター会議で協議した内容を各グループで周知するため、各グループでの協議時間を十分に確保する必要がある。

1 小・中学校の緊密な連携 (2) 教員間の交流

小中交流会の実施

当別町立当別小学校・中学校

効果的な取組とするためのポイント

従来から授業参観及び情報交換を実施してきた「小中交流会」において、小中が連携して取り組めることを協議する部会を設定するなど、中1ギャップの解消に向けて小中学校の教員が一層意識を高めて参加できるよう、内容を工夫した。

取組の実際

- 1 目的
小中の連携を図り、児童生徒の実態把握と計画的、継続的な指導を推進する。
- 2 内容
授業参観（今年度は、当別小学校）
全体会
分科会... 6分科会を設定（教職員の興味関心に基づくテーマ設定）
- 3 実施月日及び場所
平成23年6月24日（金）13:20～15:40、当別町立当別小学校
- 4 分科会について

6分科会、4つのテーマを設定して協議を行い、特に、小中が連携して取り組めることについて確認した。

学力向上について（第1・2分科会）

- ・子どもたちの現状について
- ・学校での基礎学力向上の取組
- ・家庭学習の取組交流 など

小中連携について（第3・4分科会）

- ・中1ギャップについて
- ・小学校外国語活動と中学校外国語の学習の様子
- ・総合的な学習の時間の様子
- ・出前授業について

地域について（第5分科会）

- ・校区が共通であることから、地域人材や施設、その他地域の状況などについて情報交流

生徒指導について（第6分科会）

- ・問題行動の交流のほかに、児童会、生徒会の取組も含めて、小中で共通して取り組めることを協議（リサイクル、地域行事への参加など）



成果と課題...アンケートから

(成果)

小学校の取組が見え、これからも小中協力して取り組みたい。

中1ギャップの話ができ、これからも出前授業、交換授業などを積極的に進めたい。

地域のつながりや指導の重点など、様々な交流ができた。

不登校傾向の児童に関して、兄弟姉妹の影響の強さを感じ、これからも互いの様子を聞きながら指導していきたい。

(課題)

小学校での指導を中学校が発展的に引き継いで取り組めるようにしていくことが大切である。

互いの細かな情報を共有することができたので、このような機会を増やすことが必要である。

小中の連携を一層強め、単独では解決が難しい問題の解決を図る必要がある。

挨拶や公共のマナーは、小・中学校が共通して指導する必要がある。

1 小・中学校の緊密な連携

(2) 教員間の交流

有識者を講師とした合同研修会の実施

釧路市立青陵中学校区

効果的な取組とするためのポイント

小・中学校が連携して中1ギャップ問題の取組を進めていくためには、児童生徒にかかわる情報交換を行うとともに、小中の教員が中1ギャップ問題についての共通理解を深めることが大切であることから、長期休業中を活用し、有識者を講師とした合同研修会を実施した。

取組の実際

1 小・中学校合同研修会の実施

平成23年8月17日(水)、青陵中学校において上級教育カウンセラーである釧路工業高等専門学校の三島利紀教授を講師として、青陵中学校及び校区小学校(清明小、武佐小、湖畔小)合同で研修会を行った。



2 研修内容

(1) 講話

「打って出る生徒指導～学校・教師の連携とは・・・?」と題し、教師が協働して子どもが安心できる生活集団・学級集団づくりを進めるための効果的な児童生徒支援の在り方について、実践例を基にした講話をいただいた。「教師の児童生徒理解の基準がバラバラであり、共通理解する場がない」という問題点を解決するために、アンケート結果を基にした実態交流を行い、全教職員が情報の共有化を図ることで個々の児童生徒の見方が変わってきた事例や、学級経営案にPDCAサイクルを組み入れることで学級経営が改善した事例等を通して、教員の協働体制の大切さについて理解を深めた。

(2) グループ・ディスカッション

小・中学校混合グループに分かれてソーシャルスキルトレーニングを体験した後、「中1ギャップ問題未然防止事業ふりかえりシート」を活用しながら、中1ギャップ問題の解決策やアセスの効果的な活用、小・中学校の連携の在り方等について協議を深めた。参加した教員からは、「子どもたちがどのようなことにギャップを感じているのかを知るためにも、小・中学校の教員が相互に情報を共有する場を定期的に設定することが大切である。」という感想が多く聞かれた。

成果と課題

小・中学校合同で研修会を実施し、中1ギャップ問題の未然防止に向けた協議を行うことで、校区の小・中学校の教員が相互に連携することの大切さについて認識を深めることができた。

時間的なゆとりがある長期休業中を活用したことにより、よりよい人間関係に支えられた学級集団づくりの在り方について、理論と実践の両面から共通理解を深めることができた。

指定校4校の日程調整が難しかったことから、年度当初に中1ギャップ検討委員会や研修会等の交流事業について、内容・回数・開催時期を明確にした年間計画を整備する必要がある。

1 小・中学校の緊密な連携

(3) 引き継ぎの工夫

引き継ぎシートの工夫

夕張市立夕張中学校

効果的な取組とするためのポイント

生徒一人一人の学習や学校生活の状況の他、配慮すべき事項等を簡潔にまとめ、引き継ぎシートに基づいて、小・中学校間で指導の手立てを確認しながら引き継ぎを行う。

取組の実例

中1ギャップの解消を図るためには、小・中学校間の緊密な連携が不可欠であり、児童生徒一人一人について、小学校での様子や指導経過を把握した上で、中学校での指導や対応を検討することや、定期的な情報交換の場をもつことが必要である。

このようなことから、本中学校区においては、9年間を見通して継続的に児童生徒を育てるという観点から、小・中学校で共通の観点を設定し、引き継ぎシートを基に、小学校第6学年担当教諭と中学校第1学年担当教諭とが、児童が中学校へ入学する前に情報交換を行っている。

1 引き継ぎシートの主な項目

- 学習の状況 健康に関する状況 生活・行動面の様子
- 性格（リーダー性など） 運動能力 家庭環境
- 交友関係(いじめや人間関係のトラブル等の有無についても把握する)
- 小学校第4学年から小学校第6学年までの出欠状況
- その他参考になる事柄

2 引き継ぎシートの作成

中学校との情報交換の前までに、小学校において引き継ぎシートを作成し、情報交換を通して、留意すべき事項、参考になる指導経過などを確認する。

この情報交換で、引き継いだ情報を基に、生徒一人一人の状況に応じてきめ細かく対応していくための支援の具体策を検討するとともに、中学校における受入体制を整備する。

引き継ぎシート(例)

(ふりがな)					
児童氏名					男 女
生年月日	平成	年	月	日	
学習の状況					
健康に関する状況					
生活・行動面の様子					
性格(リーダー性)					
運動能力					
家庭環境					
出席状況		第4学年	第5学年	第6学年	計
	欠席				
	遅刻				
	早退				
別室登校					
その他参考になる事柄					

成果()と課題()

引継ぎシートを簡潔な内容で作成しやすいように工夫したことにより、小・中学校教諭の面談前に引き継ぎの要点を整理することができた。

小学校における指導の状況を踏まえ、中学校での指導の手立てを明確にし、全教職員で共通理解を図る必要がある。

1 小・中学校の緊密な連携

(3) 引き継ぎの工夫

アセスを活用した引継ぎの取組

江差町立江差北中学校・小学校

効果的な取組とするためのポイント

本中学校区では、昨年度末、生活アンケート(アセス)のデータを活用した連携シートを作成した。小学校の第6学年担任が、生活アンケートの結果を基に、連携シートに記述する内容を精選・改善するとともに、小・中学校の教職員が記述内容への共通理解を図っていくことを重視した。

今後は、引き継ぎで得たデータや情報を中学校がどのように活用するのかという手立ての工夫も必要である。

取組の実際

平成22年度小中引継ぎ実施要項

江差北中学校

1. 目的
小中の円滑な引継ぎを実施することにより、小学校から中学校へ学習・生徒指導上必要となる様々な情報が正確かつ詳細に伝達され、小中一貫した指導を可能とすると同時に、中1ギャップ問題の未然防止等、中学校への適応を促すための方策の一助とする。
2. 時期
年度末に実施することを基本とする。(小学校卒業式終了後、年度末休業のなるべく早い時期)実施日時については、両学校の準備状況等を勘案して、その年度で調整する。
3. 参加教員
・小学校=(教頭)6年生担任、養護教諭
(その他小学校で引継ぎに参加させたい職員若干名)
・中学校=(教頭)新1年生学年団2名、養護教諭
4. 引き継ぎ資料
小学校から引き継ぐ資料は以下のものを基本とする。
指導要録の写し
小中連携シート
健康診断表
歯の検査表
5. その他
引継ぎ項目以外に、健康上の問題等でさらに詳しい内容の引継ぎが必要と思われる事項については、養護教諭等で別途時間を取って引継ぎを行う。
小中連携シートへの記入や引き継ぎ資料の提出に依頼については、中学校から小学校へ依頼状を送付し、行う。

連携シートを活用する際の小・中学校の留意点

- ・小学校から中学校への連携シートによる引き継ぎは、データを中学校側が事前に受け取っておき、分析し、協議に臨む。
- ・アセスによる学校や学級への適応の状況についてシートから読み取り、中学校が具体的な質問等を準備する。
- ・児童生徒のマイナスの要素ばかりを強調しないよう配慮する必要がある。
- ・プライバシーへの配慮は十分に行い、連携シートは守秘義務に基づき厳重に管理する。

連携シートを用いての感想から

- ・作成には労力を要したが、事前に引き継ぎ内容を精選した結果、子ども一人一人の指導の方向性について協議し、有意義な引き継ぎにすることができた。
(小学校教諭の感想)
- ・小学校の先生方がもつ一人一人の子どもに対する指導の意図が良く伝わった。アセスという同じ尺度で子どもを評価することで、学校間の違いを越え、共通した視点で引き継ぐことができた。(中学校教諭の感想)

第1回生徒事例研修会(引き継ぎ後に実施)

1. ねらい
引き継ぎ内容について、全教職員に周知を図り、共通理解することにより、「中1ギャップ」問題など学校接続期において発生する生徒指導上の諸問題を未然に防止すると同時に、今後の中学校での指導に役立てる。
2. 期日 平成23年 4月7日(木)
3. 方法
引き継ぎを受けた連携シートを資料とし、生徒の特徴や指導上参考となる点について引き継ぎを行った職員が説明する。特に、両校の共通の資料としてのアセスによる適応の状態などに着目し、今後の指導の方向性を確認する。
4. 準備
引き継ぎ資料としての連携シートを職員数文印刷し、会議前に配布する。

第2回生徒事例研修会(生徒実態交流)

1. ねらい
アセスの結果の中から、特徴的な傾向のある生徒を抽出し、交流する中で、より望ましい指導のあり方と支援の方向性を探る場とする。
2. 期日 平成23年11月1日(火)
3. 方法
各学年で実施したアセスの結果の中から、特徴的な傾向のある生徒を数名抽出し、分析及び日常生活で気づいた点を意見交換することで、より良い指導の方向性を探る。(アセスの結果以外でも特に気になる特徴や問題を抱えている生徒がいれば、その生徒について抽出し取り上げる)
4. 準備
学年ごとにアセスの分析結果を職員数分印刷し、会議前に配布する。
会議後は生徒指導部で回収し、処理する。

成果と課題(成果 課題)

小・中学校が連携シートにより共通理解を図り、有効な引き継ぎの実現が図られた。引き継ぎ後、中学校において連携シートの内容やアセスのデータによる学校・学級への適応状況等の情報の分析や確認がなされ、指導の充実に役立てることができた。連携シートの内容についての一層の改善を進めるとともに、シートを学校間でどのように活用していくかを引き続き検討する必要がある。

1 小・中学校の緊密な連携 (3) 引き継ぎの工夫

一覧表・家庭環境調査の取組

上富良野町立上富良野中学校

効果的な取組とするためのポイント

小・中学校間の円滑な引き継ぎが中1ギャップの解消に結び付くことから、引き継ぎを効率的・効果的に行うために新たにシートを開発した。

家庭環境調査を小学校から中学校へそのまま使用し、子どもの家庭環境の情報を小・中学校間で共有する様式を作成した。

取組の実際

1 引き継ぎシートについて

従来は、要録をコピーしたものと各小学校がそれぞれ作成したメモをもとに行ってきたが、この方法では、時間がかかるとともに、引き継ぎ事項が正確に伝わっていないなどの課題も見られたことからできるだけ詳しい情報を漏れることなく引き継ぐことができるよう、新たなシートを開発した。

通しNo	1	クラス	2	小学校	〇〇小	氏名	上富 太郎	性別	男
国語	67	数学	65	合計	132	順位	2	少年回	陸上
リーダー	◎	ピアノ		運動	○	長欠傾向		PTA役員	◎
健康面の留意事項									
その他の留意事項									

引き継ぎシートの内容について協議した結果、小学校から中学校に対して、「子どものよさを一層伸ばしていただきたい。」と要望があったことから、その他の留意事項に子どものよさを書くようにするなど、子どもの豊かな成長のための引き継ぎシートとして工夫が図られた。

2 家庭環境調査について

(1) 今までの家庭環境調査

小学校も中学校もそれぞれ家庭環境調査を行っている。しかし、様式や調査回数、時期も統一されていなかった。

(2) 新しい家庭環境調査様式

今回、小学校5年生から中学校3年生までの5年間に渡って使用できるよう家庭環境調査票を作成した。これによって、過去の健康面や生活面の状況、友達関係、家庭学習の状況、学校への要望なども引き継ぐことができるようになった。

5年生で配布する際に、中学校3年生まで使用する旨の保護者向け文書とともに配布し、小学校を卒業する際に一度保護者に返却し、中学校入学後に、中1の分を記入していただき回収する予定である。

この様式の完成によって引き継ぎシートと同様、小・中学校間の円滑な引き継ぎを図ることが可能となった。

この用紙は小学校5年生から中学校3年生まで5年間使用し、学年ごとに訂正し、記録簿を挿して担任まで再提出をお願いします。

秘 家庭環境調査票

本人	ふりがな 氏名	性別 男 女	生年月日	H. 年 月 日				
保護者	ふりがな 氏名	続柄	職業	勤務先				
	ふりがな 氏名	続柄	職業	勤務先				
現住所	上富良野町		通学先	上富良野町				
緊急時の連絡先	続柄()氏名()	続柄()氏名()	続柄()氏名()					
	番号	番号	番号					
家族	HOOには 校種・学年・クラスも記入ください。							
本	氏名	続柄	H24	H25	H26	H27	H28	
健康面・生活面での配慮(アレルギー・持病等)	○本人が罹患した際の保護者の所在 ・在室 ・不在		習い事・少年団・部活			通学距離・方法		
小5	○集団下校時の対応 ・自宅 ・放課後クラブ ・下記					夏季 冬季 ・徒歩 ・徒歩 ・自転車 ・バス		
小6	氏名					・バス 路線名		
中1	連絡先					停留所名		
中2						・徒歩 ・徒歩 ・自転車 ・バス		
中3						路線名 停留所名		
	認識	小5	小6	中1	中2	中3		

成果と課題

小・中学校間で連携・協力し、引き継ぎシートや家庭環境調査票の様式を作成したことにより、小・中学校間の円滑な接続が可能になり、児童生徒理解に向けて教員間で共通理解を図ることができた。

データ化したことによる個人情報の流出等に十分配慮するとともに、文字として記録できない引き継ぎ内容等も考えられるのでこのシートだけに止まらずに小・中連携を図っていく必要がある。

1 小・中学校の緊密な連携

(4) 出前授業の工夫

中学校教員による出前授業

夕張市立ゆうばり小学校・夕張中学校

効果的な取組とするためのポイント

教員が、小学校と中学校で関連する指導内容について理解を深め、児童の実態を踏まえて、わかる喜びやできる楽しさが実感できる授業を展開する。

取組の実際

1 実施教科及び内容

(1) 外国語活動「How to write a letter.」

「手紙を書いてみよう」をテーマとして、picture postcard（年賀状、絵はがき）を作成することをねらいとし、実際に外国へ手紙を出すことを前提に、夕張中学校に在籍しているALTの両親へあてた手紙を作成する活動に取り組んだ。

教員は、新年のフレーズをいくつか提示する。

児童は、提示されたフレーズを使い、絵も取り入れながら、絵はがきを作成する。

* 机間指導の中で、オリジナルフレーズを加えることについて指導した。

(2) 算数

トリックやクイズなどのゲームを取り入れながら、「数」の不思議やおもしろさについての学習に取り組んだ。

片手で32まで数える活動に取り組んだ。

* 「0」と「1」の2つの数字だけで数を数える。

実際にカードを操作しながら数あてゲームに取り組んだ。

覚える学習よりも、活用することに主眼を置いて、外国語への興味・関心を高めた。



「0」と「1」の数字が日常生活の中で活用されていることと関連付けながら、数学への興味・関心を高めた。



2 出前授業の実際

小学校教員の代わりに授業とならないよう、中学校教員の専門性を発揮した授業を展開することを心がけた。また、中学校では「小学校で学習したことを活用してより深く学習すること」や、「授業中大切にしていること」など、中学校の授業の様子等を児童に伝え、学習に対する興味・関心を高めた。

外国語活動の学習では、多くの児童が英語特有のフレーズに興味を示し、中学校教員やALTに積極的に質問し、個性的な絵はがきを仕上げることができた。また、算数の学習では、「数あてゲーム」を通して、「数」の不思議やおもしろさについて興味を示していた。

成果（ ）と課題（ ）

教師の発問に対する反応や、指導内容についての理解力などから、児童一人一人を多面的に理解することができた。

外国語活動、算数の授業を通して、中学校の学習に対する児童の興味・関心を高めることができた。

中学校での1日体験入学の前に出前授業を設定したことにより、児童の中学校教員に対する緊張感を和らげる機会とすることができた。

一単位時間の授業を通して、児童が中学校の授業をイメージできるようにするため、各教科等の学習における児童の実態を把握しておく必要がある。

1 小・中学校の緊密な連携

(4) 出前授業の工夫

中学校教員による出前授業の実施

七飯町立大中山小学校
七飯町立大中山中学校

効果的な取組とするためのポイント

小学校第6学年を対象に行った中学校進学に関わるアンケートの結果では、学習面に対し不安をもっている児童の割合が半数以上であった。このことから、児童の進学に対する不安を解消したり進学への意欲を高めたりできるよう、内容を吟味し出前授業を実施した。

取組の実際

小学校卒業を迎える第6学年児童は、アンケートの結果から教科担任制である中学校の授業などに興味・関心をもっていることが分かった。しかし、興味・関心がある反面、教科毎に指導する教員が替わることや、新しい学習の内容などに不安を抱えている児童も少なくないことが分かった。

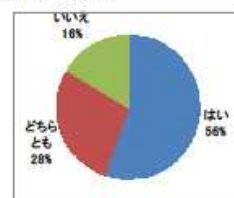
そこで、中学校への進学の前に、小学校において中学校の教員が数学の授業を実施したり、新しい教科の指導の様子などのVTRなどを視聴させたりすることによって、児童の不安を解消し、安心して中学校に進学できるように取組を進めた。



【出前授業の具体的な取組内容】

- 1 大中山中学校における授業風景のVTRを紹介
(技術、理科実験、ALT、合唱練習)
- 2 数学の授業
 - (1) 正負の数
2 - 5のお話を作ろう!
温度計を使い、加減の言葉の確認
(「2 - 5」2度から5度下がる。)
いじわる問題 「2 - 5」の意味を表現しよう!
 - (2) 空間図形
平面での「水平」「垂直」
空間(3次元)での「水平」「垂直」

勉強がすごく難しくなるのではないかと不安を感じている



○はい…56%
○どちらとも…28%
○いいえ…16%

【児童の感想】

中学校の数学の計算方法については理解できたが、その理由について考えてみたい。
中学校生活や新しい教科などの学習をするのが楽しみになった。
教科担任制は楽しみだが、いろいろな先生に勉強を教えてもらうことは、はじめての経験なので不安もある。

成果と課題

新しい教科となる技術や中学校において使用する実験道具等を紹介したVTRを視聴することで、児童の中学校へ進学する意欲が高めることができた。

数学の導入部分の授業を体験することで、児童の数学的な考え方についての興味・関心を高めることができた。

中学校における学習への不安解消を目的に出前授業を計画したが、入学後も事前アンケート結果を活用した授業を構想していく必要がある。

1 小・中学校の緊密な連携

(4) 出前授業の工夫

相互乗り入れ授業の取組

江差町立江差北中学校・小学校

効果的な取組とするためのポイント

学習指導を通じて「中1ギャップ」問題を未然に防止するという観点から、小学校外国語活動と算数・数学科で相互乗り入れ授業を行ってきた。3年間継続する中で、時間割、日課表の運用の工夫等の指導体制を整備し、実施回数の増加などの充実が図られた。小学校外国語活動の乗り入れ授業は、コミュニケーション能力の素地を養うという領域の目的からも、より効果的なものであった。

取組の実際

平成23年度 乗り入れ授業

- 7月21日 小5年外国語・中1年数学
- 8月26日 小5年外国語
- 9月29日 小6年外国語・中1年数学
- 10月27日 小6年外国語・中1年数学
- 11月22日 小6年外国語(公開研究会)



児童・生徒の感想から

- ・衣服の名前を英語で言えるようになったので、今後の生活に活かしたいです。(小5年生)
- ・私は外国語が好きです。中学校の英語の先生の正しい発音が学べて勉強になります。(小6年生)
- ・中学校の英語の先生とゲームをしたりしながら勉強することを楽しみにしています。(小6年生)
- ・授業中、複数の先生からアドバイスをしてもらい、数学がわかるようになりました。(中1年生)

小中一貫算数・数学の取組(つまずきチェックシート・ふりかえりテキスト)

「つまずきチェックシート」

江差北小中一貫教育 算数・数学つまずきチェックシート(中2 連立方程式)

上学年の関連内容	学習内容とつまずき例	下学年の関連内容
	$2X-3Y=-8$ ① $X=4Y+1$ ② ②を①に代入 $2 \times 4Y+1-3Y=-8$ つまずき 代入する式が多項式であること、そのときはカッコが必要など理解できない。 正しくは $-2 \times (4Y+1)-3Y=-8$	4年生 10. 計算のやくそくを調べよ【計算のきまり】 ①2つの式で表される乗除を、(1)を用いて1つの式に直すことができ、その式の計算順序を理解する。 $500-190=310$ $310-150=160$ $=500-(190+150)$ ②四則混合の式の計算順序を理解し、その計算ができる。 $100-(25 \times 3) \rightarrow 100-25 \times 3$ ③分配法則と乗除の順序を覚えて、一般化にまとめたり、それを用いて計算を簡単にし工夫を考案たりすることを通して、分配法則についての理解を深める。 $(5+3) \times 12=5 \times 12+3 \times 12$ その前後として ・2年生たし算における交換、結合法則 ・2年生かけ算における交換、分配法則 ・3年生かけ算における交換、結合、分配法則 計算法則の適用 ・5年生の小数 ・6年生の分数
つまずき解消の手立て	②の式で、代入前において $4Y+1$ を()でくくる。 ・計算の順序の徹底(4年生教科書より) ○普通は、左から順に計算する。 ○()のある式は、()の中を先に計算する。 ○ \times や $+$ は、 $+$ や $-$ が先に計算する。…ここがしっかり理解できていると上記の問題違いに気づく。	

ふりかえりテキストの該当問題 4-103 705, 6

「ふりかえりテキスト」
授業時間以外(朝学習 宿題として)での活用

江差北小・中学校 ふりかえりテキスト 4-1

氏名()	3 まじった計算
1. 増算で計算しましょう。	(1) $7 \times 6 \div 3$
(1) $90 \div 3 =$	(2) $50 \div 5 =$
(2) $400 \div 2 =$	(4) $480 \div 8 =$
(3) $39 \div 3 =$	(6) $85 \div 5 =$
(4) $90 \div 6 =$	(8) $60 \div 30 =$
(5) $480 \div 60 =$	(10) $90 \div 40 =$
(6) $530 \div 80 =$	(12) $90 \div 15 =$
(7) $800 \div 200 =$	(14) $700 \div 50 =$
(8) $300 \div 2.5 =$	(16) $1.2 \text{万} \div 4 \text{万} =$
2. 仮分数は帯分数に、帯分数は仮分数に直しましょう。	4 小数のたし算
(1) $\frac{11}{4}$	(1) $2.3+4.$
(2) $\frac{18}{6}$	(3) $0.2+7.$
(3) $\frac{7}{8}$	(5) $8.7-2.$
	(7) $5.9-0.$
	(9) $3.4-0.$
	(11) $4.1+5.$
	(13) $1.5-2.6$
	(15) $6.8-6=$

9年間を見通した単元・系統一覧表に従って左にあるようなツールを使いながら算数・数学の指導をしている。事前に実施して生徒の状況を把握し、乗り入れ授業の資料として活用している。

成果と課題(成果 課題)

外国語活動では、学校生活において友達同士では普段質問しないようなことも、英語なら質問できるという状況が生じ、児童のコミュニケーションスキル・学習意欲を向上させることができた。

算数・数学を「小中一貫」の視点で指導していく枠組みが構築された。

上記の取組が「中1ギャップ」問題の未然防止と同時に、「学力向上」の視点からも児童・生徒に対してどのように変容をもたらすか検証を進める必要がある。

2 人間関係を築く力の育成

(1) 教育活動の工夫

ピア・サポート、全校道德の取組

当別町立当別中学校

効果的な取組とするためのポイント

今年度の研究課題は、道德教育における「心を耕す教材の開発・活用」、各教科で「コミュニケーション力を高める授業の工夫」をテーマとして進めてきた。授業実践を重ねたうえで、それらを深化するという位置付けで本講習会を開催した。道德の内容項目2「主として他の人とのかかわりに関すること」を意識して実施している。

取組の実際

本校では、内容2「主として他人とのかかわりに関すること」を道德教育の重点に据え、生徒のコミュニケーションスキルの向上を目指した実践を進めてきた。道德の時間及び各教科において、その重点項目を踏まえた資料を各教員が準備して実践し、「まとめ」「ふかまり」の位置付けとして次の講習会を開催した。普段の授業ではできない演習や講師の講話により、生徒は他人との望ましいかかわりについて深く考え、それぞれが自分の生活を振り返り課題を見付けるなど、道德性の育成のためによい機会となっている。

〔互いに尊重し、高め合う態度を育てる道德の授業実践〕

第1学年 道德の時間

ねらい：互いの個性や立場を尊重し、色々なものの見方や考え方があることを理解し、よりよい人間関係を築く態度を育てる<内容項目2-(5)>

実施日：平成23年10月24日(月曜日) 第3、4校時

講師：中野 武房 北海商科大学教授

場所：当別中学校体育館、教室

概要：中野先生からの「ピア・サポート」の基本理念や他者理解、意思疎通について説明の後、普段かかわりの少ないメンバーで構成されたグループに分かれて「ピア・サポート」の考え方を取り入れた演習を行い、互いの個性や立場を尊重し、よりよい人間関係を築くことの大切さについて考えた。



	概	要
導入	説明 ・「ピア・サポート」の基本理念や他者理解、意思疎通のポイントについて説明 意見交流 ・グループ内で話しやすい人、相談しやすい人はどんな人が意見交流 意見の例「友達」「年齢が近い人」「うなずいて聞いてくれる人」など	
展開	ジャンケントーク ・グループでジャンケンをして全員の指の数に応じて、あらかじめ設定されているテーマに沿った話を30秒で行う プラスのストロークを送る ・相手の肯定的な部分(長所)を相手の目を見ながら伝え合う	
終末	振り返り ・お互いに認め、励ますことの大切さについて考え、感想を伝え合う	

（生徒の感想）

- ・この授業を通して、初めて知ったことがたくさんあって楽しかった。みんなのことをよく知り、相手の気持ちを読み取ることができてよかった。
- ・友達の知らない一面を発見できた。また、コミュニケーションを図ることの大切さとコツがわかった。
- ・普段話さない人と話すと結構楽しく、自然と笑顔になった。
- ・ジャンケントークで「今まで一番嬉しかったこと」など自分の気持ちを言えたことが嬉しかった。

〔コミュニケーションスキルの向上を目指した道徳の授業実践〕

全学年 道徳の時間


ねらい：コミュニケーションスキルにかかわる講演や大学生との交流をとおして、多様な個性を認め、それぞれの差異を尊重する態度を育てるとともに、他人との望ましいかかわりの大切さについて自覚を深める。 <内容項目 2 - (5)>

実施日：平成23年12月12日(月曜日) 第3、4校時

講師：冨家 直明 北海道医療大学心理科学部准教授

場所：当別中学校体育館、教室

概要：昨年度に引き続き、今年度も冨家先生を講師に招聘し、全校道徳で講演会を実施した。基本的な相手との関係の3パターンについての説明の後、医療大学の学生と一緒にロールプレイ、振り返りを行った。

	概 要	
導 入	<p>相手との関係の3つのパターンの説明</p> <p>「遠慮型～I am not OK, You are OK」 「自己中心型～I am OK, You are not OK」 「アサーティブ型～I am OK, You are OK」</p> <p>・冨家先生は中学生に対して、色んな場面でものアサーティブ型になれる力を身に付けて欲しいと述べていた。</p>	
展 開	<p>ロールプレイ</p> <p>・医療大学の学生により、日常生活で起こりうる色々な場面や状況を設定した「ロールプレイ」が行われた。</p> <p>・上の3つのパターンに沿ったセリフによる演技を見て、生徒も普段の自分を振り返りながら鑑賞することができた。</p>	
終 末	<p>振り返り</p> <p>・講演会終了後、生徒は各学級で講演の振り返りを行った。</p> <p>・医療大学の学生を交えて交流会を行い、学生による自己紹介や学生と生徒のアンケート方式による簡単な「相性診断」などで関係づくりを行った。</p>	

（生徒の感想）

- ・自分は信頼している人には、「アサーティブ」になれるけど、そうじゃない時は内気になることがあるから、これから気をつけてアサーティブになりたい。
- ・人との接し方で、こんなに変わるということを講演会で理解できたので、これからは注意したい。
- ・自分の意見も人の意見も尊重できる人になりたいと思った。

成果と課題（成果、課題）

普段の授業でもコミュニケーションの重要性などについて意識して指導してきたので、他者との望ましいかかわりの大切さについて、子どもたちの自覚を深めることができた。

昨年の反省を踏まえ、両講習会を、教務部、研究部道徳係、各学年の道徳係と連携しながら実施し、円滑に運営することができた。

「ピア・サポート」では、生徒が実際に活動する場面、「全校道徳」では大学生のロールプレイなど、多様な展開を工夫したことにより、生徒は興味をもって参加することができた。

入学直後の新1年生やクラス替えのあった2年生には、1学期の早い時期で実施する必要がある。

2 人間関係を築く力の育成

(1) 教育活動の工夫

予防的・開発的な教育相談

七飯町立大中山小学校

七飯町立大中山中学校

効果的な取組とするためのポイント

ピア・サポート活動や構成的グループ・エンカウターの取組が社会的スキルを育むためのものであるということについて、指導に当たる教員が共通理解を図り指導を行った。また、ピア・サポート活動の主活動においては、子どもたちが友達と意思疎通を図ったり、かかわり合いを深めたり、互いに理解し合ったり、協力して問題を解決したりする姿を目指し、活動の内容を工夫した。

取組の実際

七飯町立大中山小学校における取組

子どもに社会的スキルを育成するために、特別活動の時間においてピア・サポート活動を行った。

ウォーミングアップでは、社会生活において、人間同士が互いに支えあって生きていくことの大切さに気付かせた。主活動では、「よろしくインタビュー」、「一方通行と双方通行」などの活動を行うことで子どもに社会的スキルを段階的に育てることができた。振り返りでは、「友達と意思疎通を図ったり、かかわり合いを深めたりすることが、私たちの生活で大切である」などの感想をもつ子どもが多く見られた。



七飯町立大中山中学校における取組

学級活動等の時間において、「30秒自己紹介」、「一人一躍」、「いじめの正体」、「コミュニケーションって何?」、「13歳からのシンプルな生き方哲学」などの活動を行った。各活動においては、子どもたちは、グループでの体験を通して、互いに理解し合ったり、協力して問題を解決したりすることの大切さに気付く姿が見られた。振り返りにおいては、子どもたちが人間関係づくりが今後の生活に必要であるという感想をもつことができた。



「ラボラトリーのしりとりに侍」の実践

ねらい

- ・グループで課題を達成する楽しさや難しさを体験する。
- ・グループの中でのメンバーの様々な体験を通して、グループ内で起こるプロセスに気付く。
- ・グループの中での自分や他者の存在に気付く。

【生徒の感想】

- ・みんなで協力できたり、笑いがあったりとグループのみんながひとつになることができた。
- ・グループの友だちを信頼することができるようになった。
- ・みんなで意見を交流することで成功できた。協力することの大切さを知った。

成果と課題

各活動が子どもたちに社会的スキルを育むためのものであることを教員が共通理解したことで、子どもたちに友達と意思疎通を図ったり、かかわり合いを深めたり、互いに理解し合ったり、協力して問題を解決したりするなどの社会生活に必要な力を育むことができた。

各活動が計画的に実施されるよう、年間指導計画の整備を行う必要がある。

2 人間関係を築く力の育成 (1) 教育活動の工夫

社会性を育む

『地域交流合唱祭』の取組

釧路市立青陵中学校

効果的な取組とするためのポイント

総合的な学習の時間において「対人関係に関する体験的な学習」等のピア・サポートプログラムを実施した後、中学3年生が1・2年生に合唱指導を行い、その成果を踏まえて中学2年生が小学校6年生に合唱指導を行うという取組を通して、生徒の自己有用感や社会性を育成した。

取組の実際

平成23年11月2日(水)に青陵中学校において、校区の3小学校と連携した「地域交流合唱祭」を開催した。

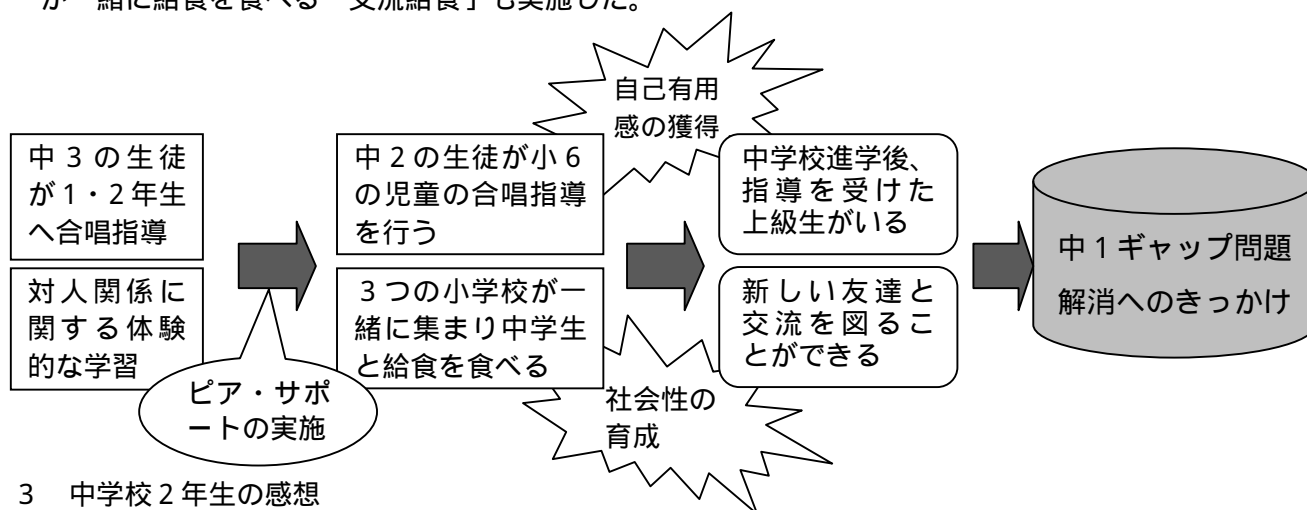
1 目的

生徒に「自己有用感」を獲得させることにより、個々の生徒の問題回避力(好ましい行動)を育むとともに、集団で問題行動を回避していく力を高める。

小学校6年生と中学生と一緒に行事に取り組むことにより、中学校進学時にスムーズに中学校生活に溶け込み、「中1ギャップ」問題を改善することができるようにする。

2 活動内容

中学校における事前の活動として、「対人関係に関する体験的な学習」を通して生徒のコミュニケーションスキルを高めるとともに、3年生から指導を受けた2年生が校区の小学校6年生に対し合唱指導を行った。地域交流合唱祭当日は、児童生徒の良好な人間関係を構築するため、中学生と小学生と一緒に給食を食べる「交流給食」も実施した。



3 中学校2年生の感想

- ・ピア・サポートのスキル学習で学んだことを小学生との交流に生かすことができよかった。
- ・小学生のわからないところを歌ってあげるなど楽しく練習できた。また小学生と一緒に歌いたい。
- ・中学校へ入学してきたら、またいろいろなことを教えてあげたい。

成果と課題

小学生と中学生との人間関係が形成され、中学校進学に対する不安を減らすことができた。

ピア・サポートのスキル学習を受けた中学生が、望ましい対人関係の築き方について自ら考えながら下学年への合唱指導を実践したことにより、自己有用感を実感できる活動とすることができた。

小学校の学芸会終了直後の取組であったため、指導時間の確保等についての学校間の連絡調整が難しく、年度当初から計画的に推進する必要がある。

2 人間関係を築く力の育成

(2) 交流活動の工夫

児童会・生徒会交流

当別町立当別小学校・当別中学校

効果的な取組とするためのポイント

児童会活動、生徒会活動の時間を活用し、生徒会役員が小学校を訪問して児童会役員と交流した。

小学生に事前にアンケートをとり、中学校生活への質問や不安を把握して、中学生が説明やアドバイスをを行った。

アンケートで小学生から「先輩が怖そう」という声が寄せられたため、生徒会があいさつで明るい中学校をつくらうという目的で挨拶運動を行うなど、生徒の自主的な取組に発展した。

取組の実際

1 事前準備

11月7日	新生徒会役員認証式・委員会（小学校訪問についての打合せ）
11月14日～	生徒会役員で実施細案検討（リーフレット作成）
11月15日～19日	エコキャップ・リングプル回収運動
11月18日	事前に小学校に配布していたアンケートの回収・集約
11月21日	代表委員会にも協力してもらい、エコキャップのカウント作業
11月24日	当別小学校多目的室において交流実施

2 当日の流れとその様子

アイスブレイキングを取り入れた自己紹介

多目的室で対面した後、自己紹介を行った。初対面では一度で互いの名前が覚えられないため、フルーツバスケットやハンカチ落としをアレンジした自己紹介ゲームを行ったことにより、互いの距離感を近づけることができた。

こうしたアイスブレイクの活動が、児童生徒同士の交流活動では大切であることを改めて認識した。

児童会活動、生徒会活動の紹介

児童会からは、エコキャップとリングプルの回収や、雪祭りの計画などの活動経過報告、生徒会からは代表委員会と協力して行ったエコキャップ回収や生徒会の日常活動の様子など、相互の活動を紹介した。



イスに座れなかった人は、趣味や好物などを言い、自己開示をする。



児童会活動の発表の様子

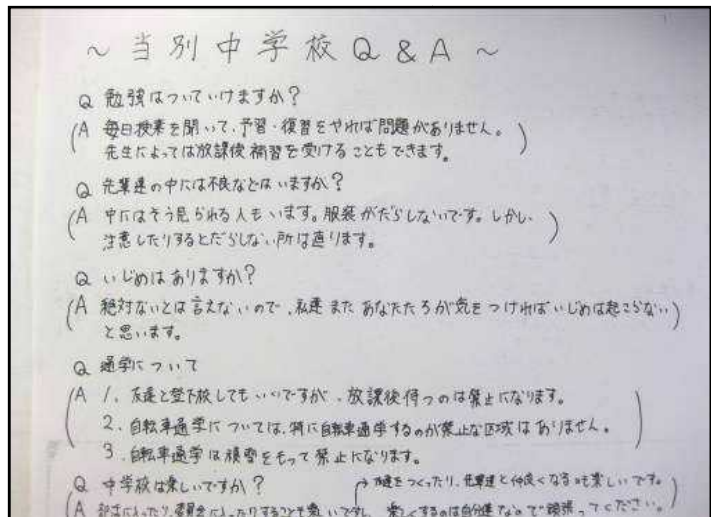


生徒会エコキャップ回収活動の様子

中学校生活についての説明

生徒会が事前に作成した「当別中学校リーフレット」を小学校6年生に配布し、児童会に説明を行い、後日、他の児童に伝えるようお願いをした。

リーフレットの内容
当別中学校の1年間
生徒会長の1日
部活動紹介
当別中学校Q & A



「生徒会長の1日」では、登校時間や授業、放課後の部活動時間や自宅での学習時間などについて紹介した。

当別中学校Q & Aは、事前に小学6年生に記入してもらったアンケートの中で、特に多かった質問に対する回答を載せてある。質問はやはり「不安」というものが多かったため、口頭で補足説明を行い、丁寧に児童会役員の児童に伝えるようにした。



質疑応答

児童会からは、「勉強は難しいと感じますか」「習い事がある人は部活動をしてはいけないのですか」などの質問があり、生徒会からは、「雪中運動会は自分たちが小学生の時にはなかったのですが、どんなことをやる予定ですか」などの質問、意見交流があった。



会の終わりに、記念写真の撮影と、中学校で回収したリングブルの贈呈を行った。

3 事後の活動

中学校では生徒会通信を作成して、小学校訪問の内容を全校生徒に伝えた。アンケートの中で「先輩が怖そう」といったような回答が見受けられたために、あいさつで明るい学校を作ろうという目的の下、新たに朝のあいさつ運動を行うようにした。

小学校では6年生全員にリーフレットが配布され、児童会から他の児童へと、今回の交流会で説明された内容が話され、中学校生活への不安を期待に変えていくようにした。

成果と課題（成果、課題）

事前指導に時間が必要であるが、児童生徒が学校の様子を交流できるよい機会とすることができた。
学校の代表であるという自覚をもって行える活動であり、児童会、生徒会役員のリーダー性を育成することができた。
基本的な情報を6年生全員に伝えるため、リーフレットの活用を有効に活用することができた。
複数の小学校から1校の中学校へ入学する場合や、1校の小学校から別々の中学校へ入学するというような地域で行う際は、実施時期や会場、内容等を工夫する必要がある。
児童会、生徒会の役員以外の児童生徒も参加できる取組を検討する必要がある。

2 人間関係を築く力の育成

(2) 交流活動の工夫

中学校生活に対する アンケートを活用した交流活動

七飯町立大中山小学校
七飯町立大中山中学校

効果的な取組とするためのポイント

小学生と中学生による交流活動を有意義なものとするために、小学生に事前にアンケートを行い、不安や疑問について把握した。また、アンケートの結果についての集計や分析を行うことにより、小学校から中学校への引継ぎの資料として有効に活用する。

取組の実際

中学校生活の不安を解消するアンケートの実施

小学校第6学年を対象に、中学校生活に対する不安や疑問についてのアンケートを実施した。アンケートについては、集計結果から子どもの進学に対する意識を分析するとともに、中学生との交流時に有効に活用した。

【アンケートの結果より】

- ・勉強が難しくなるか不安・はい(56%)
- ・部活動入部を考えている・はい(76%)
- ・先輩や友達との関係が不安・はい(38%)
- ・教科担任制が不安・はい(38%)

アンケート 実施日 月 日
6年 組 名前 ()

このアンケートは、業年中学校進学をひかえた皆さんの不安を少しでもやわらげるためにつかうものです。ですから、正直に、適慮せず記入してください。

下の質問に最も近い答えを「はい」「いいえ」「どちらともいえない」の中から選んで○をつけてください。

No.	質問	はい	どちらともいえない	いいえ
①	勉強がすごく難しくなるのではないかと不安を感じる			
②	勉強の仕方がどうなるのかわからない			
③	先生が毎時間変わるのが気になる			
④	英語や技術といった新しい教科が不安だ			
⑤	定期テストの結果で成績や進路が全てが決まると思っている			
⑥	毎日制服を着るのがいやだ			
⑦	服装や髪形のきまりがあるといやだ			

【子どもへのアンケート用紙】

中学生との交流活動

新入生学校説明会において、小学校第6学年と中学校第1学年の交流活動を行った。はじめに、大中山中学校生徒会から、中学校における学習や生活、部活動の紹介を行った後、「中学校生活の不安を解消するアンケート」を基に小学生が中学生に質問をした。

Q 勉強は、難しいですか。

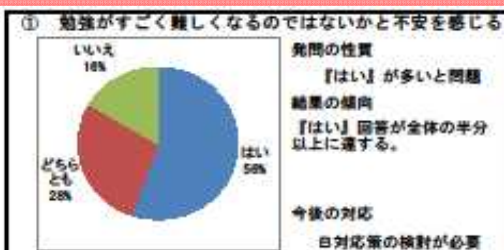
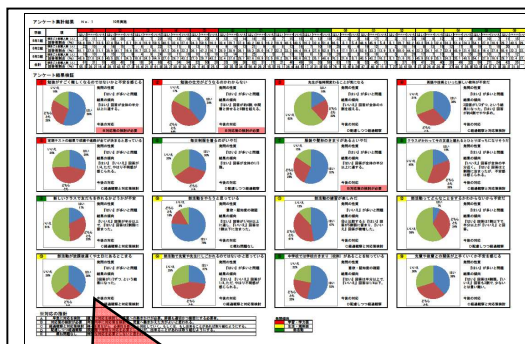
A 授業中、先生の話をしっかり聞いて、毎日、家庭学習を行えば大丈夫です。

Q 部活動での先輩との関係が心配です。

A 先輩は、ときには厳しいけど、どの部活でも親切・丁寧に教えてくれるので安心してください。

Q 教科担任制が不安です。

A その教科に詳しい先生なので、教え方がとても分かりやすいです。



成果と課題

中学校生活についてのアンケートを集計・分析することにより、入学時の不安について把握することができ、中1ギャップ解消の一つの手立てとすることができた。

実際に中学校生活が始まった段階で、新入生の不安を解消するための具体的な方法について検討する必要がある。

2 人間関係を築く力の育成

(2) 交流活動の工夫

「なかよしサミット」の取組

上富良野町立上富良野中学校

効果的な取組とするためのポイント

中1ギャップ未然防止事業の拠点校・連携校の枠を越えて、交流活動「なかよしサミット」を開催し、年度ごとに設定したテーマについて小・中、高等学校の児童生徒が創意工夫した取組を実践し、よりよい人間関係を築く活動について話し合いを深めている。

取組の実際

1 「なかよしサミット」の運営組織について

「なかよしサミット」は、「上富良野町生徒指導推進協議会」に参加している各学校の担当教諭が中心となり、年1回、8月下旬に開催している。本サミットには、町内の小・中・高等学校が参加することから、中1ギャップ未然防止事業の拠点校及び連携校に加えて他の学校の児童生徒が中1ギャップ等について考える機会となった。

サミットにおいては、最初に、昨年度の「テーマ」に基づいて取り組んだ実践を全体で交流し、その後、次年度の取組についてグループに分かれて話し合い、全体で確認している。

2 今年度の取組について

小・中、高等学校から児童生徒34名が集まり、はじめに平成22年度のテーマであった「いのち」に関しての各学校の実践発表が行われた。次に、「植物」、「ペットボトルキャップ・リングプル」、「交通安全」の3つのテーマごとにグループに分かれ、来年度に向けた具体的な取組について話し合いを行った。話し合いにおいては、小、中学生から積極的に意見が出され、その意見を高校生がまとめた。

今年度の実践発表の内容

- ・リングプルやペットボトルを集めてワクチンなどを購入するための基金に向けた取組の提言
- ・町内の学校すべてで自転車の乗り方を統一する「自転車三カ条」についての提言
- ・児童会で行った思いやりキャンペーン、なかよしキャンペーンの提言
- ・花を育てることによって、命を大切にすることについての提言
- ・生徒会として、いじめについて話し合い、原因や対策を考える提言



「ルールがあるから～する」ではなく「命を守るためにルールがある」という意識が必要だと思う。交通安全について話し合う中で改めて思った。

交通安全についての話し合いと上中の自転車通学の意識、通じることがたくさんあって、深く考えることができた「なかよしサミット」だった。(生徒の感想から)

次年度のテーマも「いのち」とし、取組として 植物を育てる取組、 ペットボトルキャップ、リングプルの取組、 交通安全三カ条の取組の3点について取り組んでいくことを確認した。

小・中学生、高校生が主体的に話し合うことで、積極的に話し合いに加わる小・中学生の姿や小・中学生をリードする高校生の姿など、普段の学校生活では見られない様子がうかがえ、「なかよしサミット」の活動を通して人間関係を形成していく力の高まりを感じることができた。

成果と課題(成果 課題)

小・中学生、高校生がテーマを踏まえて話し合いを行うことにより、人間関係を築く力を向上させることができた

異校種間の交流から中学生や高校生にリーダーとしての立ち振る舞いが見られるなど、日常とは異なった人間関係の中で自分の考えを聞いてもらう経験をすることができた。

日常から学校種間の連携を図るなど、より一層の人間関係を築く力を高める機会の拡充を図る必要がある。

3 児童生徒へのきめ細かな対応 (1) 生活アンケートの活用

小・中合同の分析・交流会

上富良野町立上富良野中学校

効果的な取組とするためのポイント

小・中合同の交流会を実施し、アセスの目的や結果を踏まえた教育相談について共通理解を図るとともに、アセスを活用した指導の効果について協議を深めている。

取組の実際

1 アセスの取組にあたって

各学校での実施に先立ち、事前に中1ギャップ検討委員会において担任の学級経営や指導力を測るのではなく、生徒の内面や学校への適応感を測定するために行うものであることを全体で確認し、各学校において周知するよう確認した。

2 取組の実際

各学校とも概ね右のような流れで実施している。

1回目のアセスにおいては、実施、分析の後、すべての生徒に教育相談を行うとともに、教育相談の結果を全教職員で共通理解を図り、共通した行動が取れるようにした。

2回目のアセスは11月に実施しており、1回目同様、教育相談を視野に入れて取組を行うよう確認した。顕著な変化が見られた例もあったが、全体的には、期間が短いこともあり、大きな変化は見られなかった。

3 各学校の取組の交流

12月に行った第2回の中1ギャップ検討委員会において、各学校の取組について交流を行い、次のような意見が出された。

中1ギャップ検討委員会における意見

アセスで初めて適応感が低いことが分かった児童生徒がいた。教育相談を行う際に、事前にどの因子が落ちているか分かっているので、相談をする際のきっかけが作りやすかった。児童生徒の実態把握において新たな発見があり、個人懇談で活用することができた。結果を学年で交流し、対応を検討することもできた。保護者との懇談で、因子の一部を活用することができた。小規模校では、日常の観察等で把握できる情報が多いが、より客観的に捉えることができた。

アセスを実施し、児童生徒の実態把握に役立つとの意見が多く出されるとともに、各学校におけるアセスを用いた児童生徒理解にかかわる取組を交流することができた。

成果と課題（ 成果 課題）

アセスの導入に向けて、教職員の共通理解に時間をかけたことにより、実施後、分析結果を積極的に活用することができた。

アセスの結果を活用した、予防的・開発的教育相談の在り方について研修を深める必要がある。小学校では、今後、全学年を対象として実施できるような校内体制を構築していく必要がある。

7月のアセス実施の流れ

【様子の観察】アセスの結果の確認と分析。担任のみならず、部活や教科担任などが、かわりのある生徒の結果を確認した。また、適応感が低くなっている生徒に対しては、その後の日常生活の様子を注視した。

【個人懇談】学校祭終了後、9月中に実施した。

【学年会議】教育相談の結果を踏まえ、心配される生徒の交流、今後の指導方針、指導の具体的な内容を話し合い、共通理解を図り、共通行動が取れるようにした。

【職員会議】学年で話し合われた生徒についての指導方針、指導の具体的な内容を全職員に周知し、教科担任あるいは部活等での支援も行っていくことを確認した。

【結果の検証】11月に再度アセスを実施し変化を見た。アセスの結果に基づき、改善された部分や残された課題、新たな課題を洗い出した。

3 児童生徒へのきめ細かな対応 (1) 生活アンケートの活用

「アセス」を活用した児童理解 と学校適応支援の取組

釧路市立湖畔小学校

効果的な取組とするためのポイント

新たな集団を形成する中学校生活が、よりよい形でスタートできるよう、小学校における定期的な「アセス」の実施によるデータの蓄積、学校行事・児童会行事等の縦割り活動を中心とした、児童の学校適応支援の推進、「アセス」のデータ等を活用した中学校との円滑な引継ぎを行った。

取組の実際

1 アセスを活用したデータの蓄積

青陵中学校区の小学校3校では、5・6年生を対象に生活アンケート「アセス」を6月・11月・2月の年3回実施している。

「アセス」を実施することで、児童の学校への適応の状況を教員の主観的な見取りと客観的なデータ結果を照らし合わせながら把握することができる。生活満足度が低い結果となった児童については、その後の支援の方策を検討し、実際の支援に取り組んだ結果、学校への適応感がどのように変容していったかを2、3回目の結果で見取ることとしている。このように、「アセス」を定期的実施することで、児童の変容をより客観的かつ適切に把握することができる。

2 学校行事、児童会行事の縦割り活動を軸とした学校適応支援の推進

本校では、児童の学校適応を促進するために、構成的グループエンカウンターを代表とする様々なアプローチを取り入れており、学校行事・児童会行事等の縦割り活動において児童の発達の段階に応じた様々なエクササイズを行い、一人一人の児童に達成感をもたせ、学校適応感を高める取組を推進している。



今年は校舎新築と重なったことから、児童会行事として“ありがとう・さようなら旧校舎集会”を企画し、縦割りグループで校舎を巡るウォークラリーを実施した。実施に当たっては、縦割り班における児童相互の良好な人間関係を築くためのエクササイズを取り入れるとともに、「アセス」の結果を基に担当する教員が児童個々の学校適応感を高めるためのアプローチを計画し、達成感をもたせるよう支援を行った。各行事後のアンケートにおいて、ほぼ全ての児童が「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答するなどの成果が見られた。

3 中学校とデータ交流による円滑な引継ぎ

青陵中学校区には3つの小学校があり、各学校の担当者と構成する中1ギャップ検討委員会を年3回開催し、中1ギャップ解消に向けた小中連携の在り方について協議を行っている。年度末には各小学校から中学校に対し、「アセス」のデータを基に、個々の児童についてきめ細かな引継ぎを行っている。このことにより、中学校における適切な学級編制と特別な支援を要する生徒に対する支援の充実につながっている。

成果と課題

アセスを複数回実施することで、児童の学校適応状況を定期的に把握することができ、個々の児童に対する支援を充実させることができた。

低・中学年においてもアセスを実施することで、発達の段階に応じたきめ細かな児童理解と支援の充実を図る必要がある。